

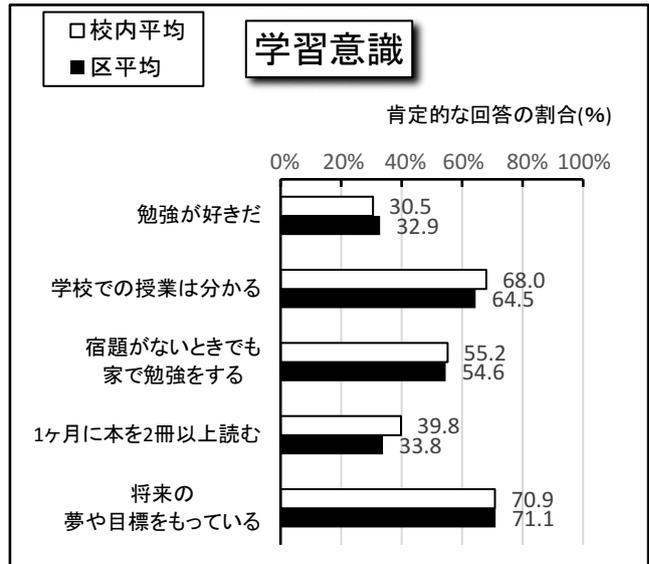
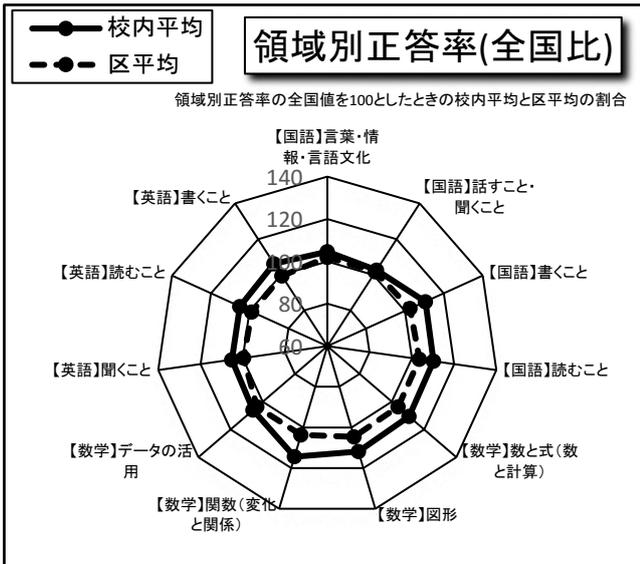
# 第2部

## 各校の調査結果概要と 学力向上への取り組み

### 2 中学校

第一 ……………	92	栗島 ……………	110
第四 ……………	93	江南 ……………	111
第五 ……………	94	江北桜 ……………	112
第六 ……………	95	鹿浜菜の花 ……	113
第七 ……………	96	新田 ……………	114
第九 ……………	97	千寿青葉 ……	115
第十 ……………	98	千寿桜堤 ……	116
第十一 ………	99	竹の塚 ……………	117
第十二 ………	100	西新井 ……………	118
第十三 ………	101	花畑 ……………	119
第十四 ………	102	花畑北 ……………	120
青井 ……………	103	花保 ……………	121
伊興 ……………	104	東綾瀬 ……………	122
入谷 ……………	105	東島根 ……………	123
入谷南 ………	106	浏江 ……………	124
扇 ……………	107	谷中 ……………	125
加賀 ……………	108	六月 ……………	126
蒲原 ……………	109		

# 第一中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	73.7	71.5	76.2	80.3	79.5	90.6	82.4	72.9	61.2	58.9	60.7	71.0
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	74.1	70.9	67.0	80.2	85.7	86.8	80.0	69.1	61.8	63.0	60.2	55.6
平均正答率(R6)	70.5	60.1	71.1	66.7	73.7	91.4	73.9	56.6	59.4	72.2	45.7	65.2
平均正答率(R5)	76.8	58.9	65.1	77.7	76.6	78.2	76.9	53.4	63.5	76.0	48.3	59.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

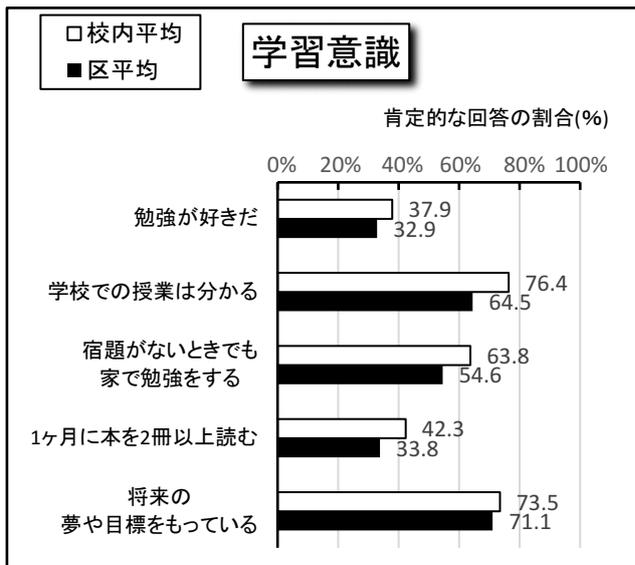
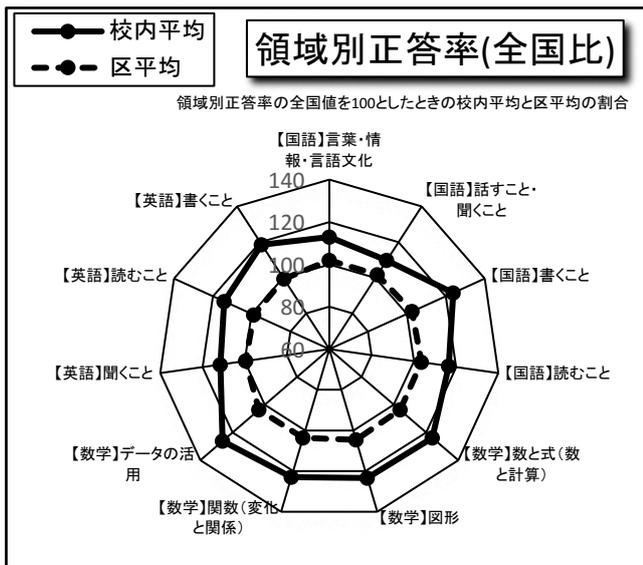
学校全体でみると、通過率は昨年度と比べて国語で若干下がっているものの、英語と数学は上がっている。

- 国語:通過率で見ると、1・2年生においては昨年度より上昇しているが、3年生は昨年度を下回っている。話すこと・聞くことの平均正答率が、ほかの分野に比べてやや低いことが課題である。また、3年生の漢字の書きに課題がある。
- 数学:3学年とも区の平均正答率を上回っている。2・3年生は通過率が昨年度より上昇した。学年が上がるに従い、通過率が下がっており、学力の二極化傾向が見られるため、底上げを図る必要がある。
- 英語:3学年とも区の平均正答率を上回っている。3年生は2年次に比べると通過率が10ポイント近く上昇している。
- 意識調査:「学校での授業は分かる」に対する肯定的回答は、区平均を上回っているのに対し、「勉強が好きだ」は区平均を下回っている。学習への意欲を高めることが課題である。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習・週末課題:A Iドリルを活用して学習習慣を身につけ、基礎・基本の定着を図る。また、生徒が自らの学習における課題を見いだして、計画的に学習に取り組む力を育てる。
- キャリア教育:将来の夢や希望をもつことにより、主体的に学習に取り組む態度を育てるため、夢デザインシートの活用やキャリア教育の充実を図る。
- 国語科の主な取り組み:授業における話し合いや発表などを通して、自分の考えを文章にする経験を積み重ね、文章記述することに対する自信をつけさせる。
- 数学科の主な取り組み:反復練習により基礎的な計算力の向上を図る。また、授業において問題解決学習に取り組み、学び合いなどを取り入れ、思考力を問う問題にも粘り強く取り組む姿勢を育てる。
- 英語科の主な取り組み:短い英文を読む練習を繰り返し、読むことに慣らす。正しい文法を用いて、自己表現ができるように継続的に練習を重ね、書くことへの自信をつけさせる。
- 小中連携研修会と年間7回の校内研修を通して、授業力の向上に取り組む。

## 第四中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	87.5	84.7	84.4	88.6	86.1	92.3	90.7	85.9	72.4	82.3	81.6	88.6
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	82.0	83.5	82.6	83.4	88.6	91.2	91.4	87.1	82.2	72.3	75.1	74.2
平均正答率(R6)	76.3	66.5	76.6	72.7	77.0	92.1	77.2	60.7	66.0	79.5	59.0	77.0
平均正答率(R5)	80.8	66.0	73.1	80.1	77.2	79.6	82.7	63.9	73.0	79.8	55.5	69.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

### 「学習定着度調査」分析結果

今年度、学校全体の3教科平均の通過率は85.5%となり、昨年度に比べ、2.8ポイント上昇した。各教科の通過率は、2年生が国語で7.3ポイント、「読むこと」の領域で10.8ポイント、3年生は英語で6.4ポイント、「書くこと」の領域で7.3ポイント、昨年度より上昇した。また、応用問題についての平均正答率も各学年・教科ともに区の平均を大きく上回った。

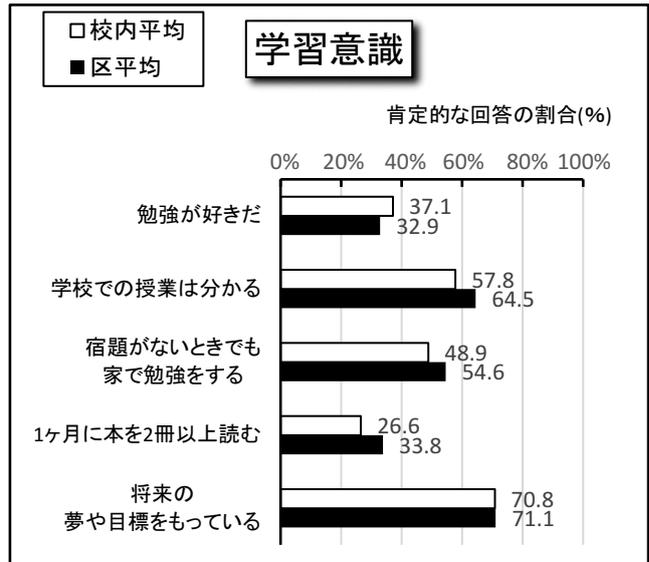
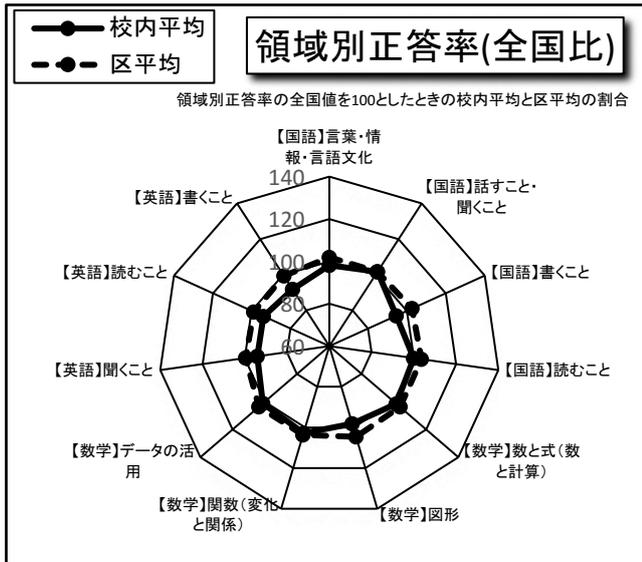
意識に関する調査では、どの学年も8割以上の生徒が「学校の授業は楽しい」と回答し、「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ」「勉強していて、興味・関心をもったことは、自分から調べる」「先生から示された課題や自分で立てた課題について、インターネットや図書等から必要な情報を集め、整理することができる」の項目で区の平均に対し、肯定的な回答の割合が高い。

授業をはじめとする、基礎・基本をおさえた学習指導やアクティブ・ラーニングを重視した学習活動など、毎日の実践が確かな学力の定着につながり、発展的な学びに向かう姿勢を育んでいると考える。さらに自己肯定感を高める取り組みを推進していく。

### 学校による学力向上への主な取り組み

○アクティブ・ラーニングを重視した授業の工夫:思考力・判断力・表現力等の向上を図るため、グループワークなど、学習形態を工夫する。○学習ウイーク:数学・英語の朝学習の内容を反映した確認テストを隔月で行う。不合格者はテスト翌週、補充教室に参加し、再テスト合格まで取り組む。○朝学習:A Iドリルを活用した学習や読書に取り組む。○定期考査前質問教室:定期考査前の放課後、質問教室を開催し、個別学習を支援する。○サマースクール:夏季休業中、本校教員を中心に7日間のコース別補充教室を行う。同時に自習教室を開設し、個別に学習できる環境を提供する。○スタディ・プラス:学習ウイーク後の数学・英語の補充に加え、国語・社会・理科の基礎的な学力定着のための放課後補充教室を実施する。○各種検定試験の実施:年間を通して、英語・数学・漢字の各種検定を本校を準会場として実施する。○学習ガイダンス:1年生の年度当初に、授業の受け方や家庭学習の取り組み方などの要点を「各教科の学習法」を配付して指導する。○論理的思考力の向上:「論理的な思考を進めるための発言ルール・スキル」を教室掲示し、常に意識しながら学習に取り組む。

## 第五中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	64.2	60.6	56.9	77.3	71.2	77.3	67.9	66.0	39.6	50.0	47.3	51.3
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	65.4	65.4	50.2	76.7	73.3	78.3	72.5	69.6	39.1	52.3	56.8	39.8
平均正答率(R6)	66.2	53.6	60.7	64.2	68.4	86.5	67.3	51.2	49.6	67.1	41.2	54.3
平均正答率(R5)	73.4	53.3	56.5	73.7	64.5	71.8	74.7	51.7	55.4	72.1	46.3	51.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

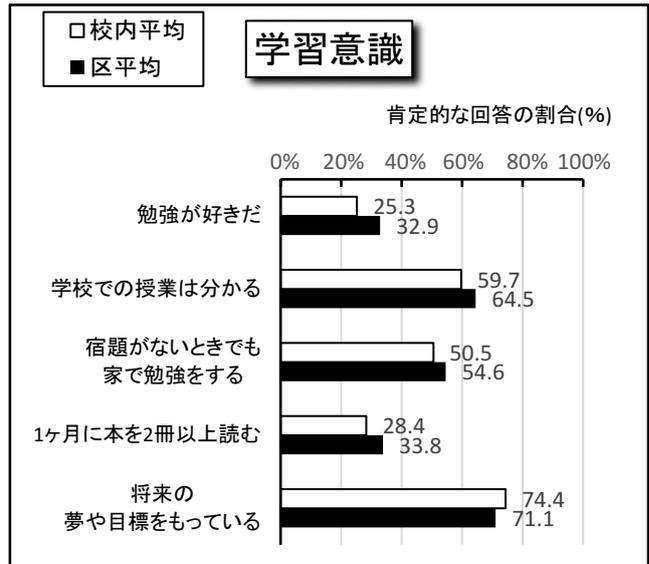
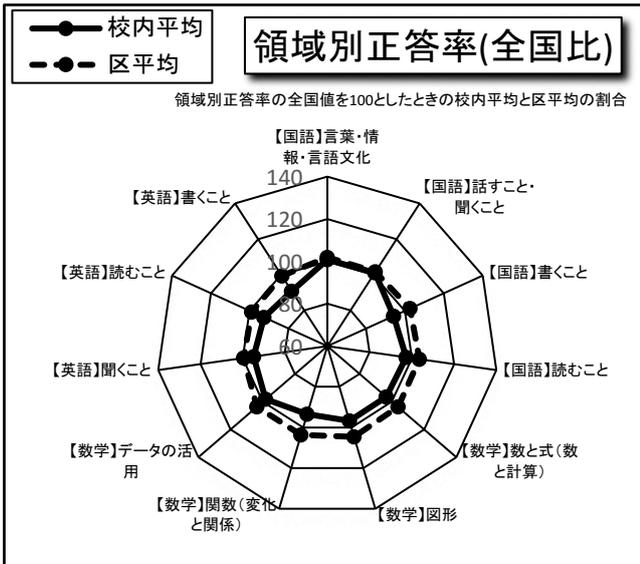
### 「学習定着度調査」分析結果

- 【国語】平均正答率66.2%、校内通過率64.2%である。どの学年も本文の読み取りに関する問題の正答率は比較的高いが、その内容を踏まえて「書くこと」には課題がある。「何を」「どのように」書くか、問題文から正しく読み取り、それに沿って書く力が必要である。また、漢字の書きも正答率が低いため、日々の漢字学習の徹底や読書の推進などに努めていく。
- 【数学】平均正答率53.6%、校内通過率60.6%である。領域別では「図形」「データの活用」に課題があるため、今後、夏休みのサマースクール、習熟度別少人数授業や放課後補充教室を活用して、基礎・基本の徹底を図っていく。
- 【英語】平均正答率60.7%、校内通過率56.9%である。全学年において「書くこと」に関して苦手意識をもっている生徒が多い。その理由として、表現したいが単語が分からない、書けないという理由が挙げられる。今後、英語の語順を意識したライティングの指導を帯活動で取り入れるなど、日常的に「書く力」の向上をめざす。

### 学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードを基盤とした「分かる授業」を共通実践するとともに、数学、英語では少人数指導を展開し、個に応じたきめ細かい指導を行う。
- 読書習慣および読解力をつけるために、毎週始業前の時間を活用して朝読書に取り組む。
- 基礎・基本の定着を図るために、国語、数学、英語において放課後補充教室を行うとともに、漢字、数学、英語検定を実施し、土曜スクールで模擬テストなどに取り組む。
- 学習ボランティアを活用して、毎週1回、金曜日の放課後に自主学習教室を実施する。
- 国語、数学、英語、社会、理科の学習コンテストをそれぞれ年1回行い、事前学習を充実させるとともに、不合格者を対象に事後学習として放課後補習を行う。
- A Iドリルの課題や家庭学習ノートを充実させ、自学自習の習慣を身につけさせる。
- 「教室の前方には何も貼らない・置かない」とし、生徒が集中して学習に取り組めるよう、教室環境の整備を図る。

# 第六中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	65.3	59.9	59.1	64.9	62.8	84.0	76.3	63.4	49.5	54.0	52.9	42.5
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	65.9	73.0	61.8	76.3	81.4	79.4	60.7	57.1	44.0	59.3	79.1	59.3
平均正答率(R6)	66.4	51.4	59.8	59.8	64.6	88.1	70.0	48.7	52.0	69.8	39.0	49.1
平均正答率(R5)	73.5	60.6	61.9	75.7	72.4	74.9	71.2	47.5	53.1	73.3	58.6	61.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

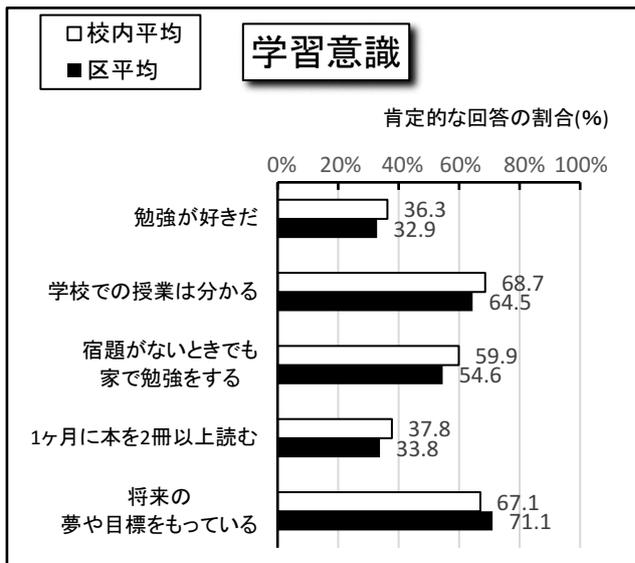
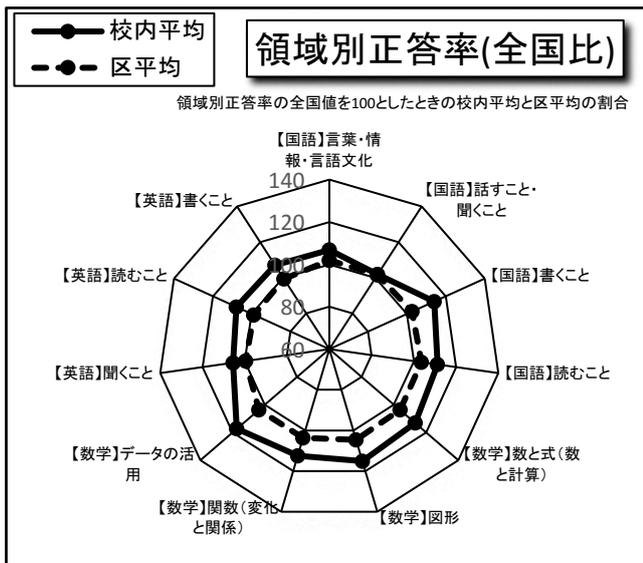
## 「学習定着度調査」分析結果

- 【国語】領域別正答率では、「言葉・情報・言語文化」と「話すこと・聞くこと」の領域で区平均とほぼ同じ結果となった。また、2年生の通過率が昨年度から比べると15.6ポイント上昇し76.3%となった。さらに2年生の通過率を全国と比較すると、昨年度は10ポイント以上マイナスであったが、今年度は同程度となった。
- 【数学】3年生の通過率は昨年度と比較すると、26.2ポイント下回り52.9%であった。しかし現3年生を経年比較すると、通過率における区平均との差は1年次には-11.9ポイント、2年次には-7.8ポイントと縮まり、今年度は区平均との差が±0ポイントとなった。
- 【英語】1年生の平均正答率が8割を超え、通過率でも区平均を3.3ポイント上回った。2年生は、通過率で昨年度より5.5ポイント上昇している。領域別正答率では、「聞くこと」で最も区平均に近い結果を残した。
- 【学習意識】「将来の夢や目標をもっている」の質問で肯定的な回答の割合が区平均を上回った。しかし、家庭学習や読書習慣が定着していない点が課題として挙げられる。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 日々の授業では、足立スタンダードに基づき主体的・対話的で深い学びを実現し、「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせ、伝える力の育成に重点を置いている。
- 週3回の放課後補充教室を全教員による指導体制で全生徒を対象に実施している。数学と英語を中心に、一人ひとりの定着度に応じた個別指導も取り入れている。個に応じた指導を実践することで、分かることの楽しさを経験させている。また、放課後の補充教室などの機会にChromebookを活用してAIドリルを使った学習を5教科で積極的に行っている。苦手意識の強い単元や、基礎学力の定着率の低い分野を徹底的に反復学習している。
- 校内コンテストを、漢字・計算・スペリングの3教科で設定している。コンテスト取り組み週間をつくり、朝学習、放課後補充教室を活用するとともに、主体的に学習に取り組めるよう多様な課題を準備し、基礎・基本の徹底と学習意欲を高める環境をつくっている。
- 「本に触れる機会」を増やし、読書活動を通じて語彙力や知識を増やし、読み解く力や文章力を向上させるために、朝読書をコンテスト期間を除いて通年で実施している。

# 第七中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	78.0	73.7	75.4	81.3	82.9	86.7	86.0	82.5	67.5	66.4	54.4	70.4
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	73.5	70.1	67.5	79.3	86.8	78.5	83.8	65.0	59.8	57.3	57.8	63.8
平均正答率(R6)	71.8	61.3	70.9	67.3	76.0	91.4	75.5	62.0	62.9	73.2	42.7	64.4
平均正答率(R5)	76.8	56.5	66.5	79.0	74.2	74.5	77.9	47.8	62.5	73.4	45.0	65.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

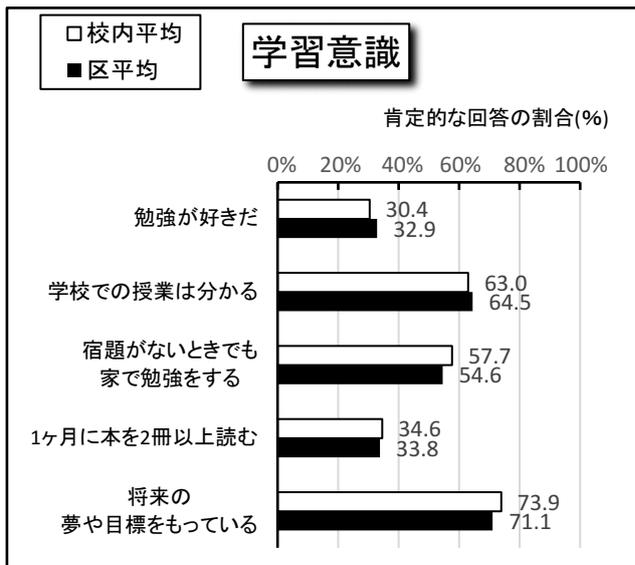
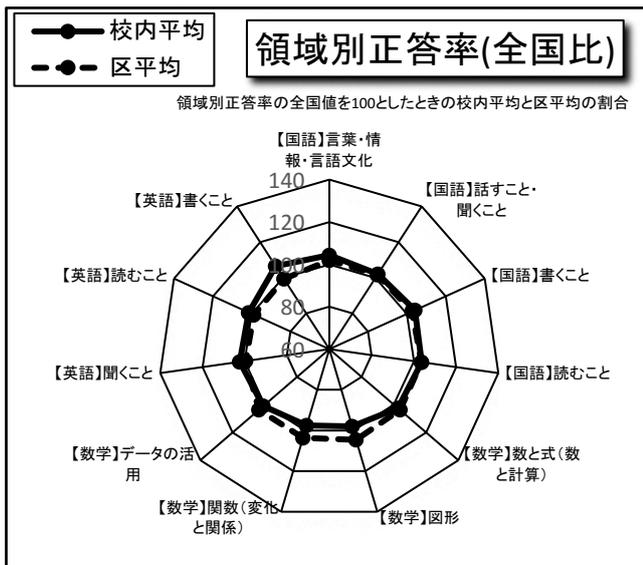
## 「学習定着度調査」分析結果

- 国語は1・2年生では通過率が8割を超え、3年生では6割を超えた。区の平均正答率との比較では、1年生では3.7ポイント、2年生では4.9ポイント、3年生では2.0ポイント上回った。3年生は、漢字の書き、聞くことに課題があり、漢字に関しては授業や家庭学習で取り組む必要がある。聞くことに関しては、聞き取りテストなどを定期的実施するなど工夫していく。
- 数学は1・2年生では通過率が8割を超え、3年生では5割を超えた。区の平均正答率との差は、1年生では6.1ポイント上回り、2年生では9.8ポイント、3年生では0.1ポイント上回った。関数分野に課題があり、授業では既習事項を確認しながら学習を進める必要がある。
- 英語は1年生は通過率が8割を超え、2年生では6割、3年生では7割を超えた。区の平均正答率との比較では、1年生は3.7ポイント、2年生は7.8ポイント、3年生は5.1ポイント上回った。2、3年生では、英文からの読み取り、英文記述に課題がある。英文の読み取り、記述ともに習熟度にあった課題を設定し授業を行う。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- ・英語と数学では、習熟度別少人数授業を行い、生徒の習熟度に応じた課題を設定する。
- ・国語では、漢字指導と聞き取り問題の指導を充実させる。
- ・「読み解く力をつける時間」として朝読書の取り組みを継続する。
- ・朝学習週間を設け、タブレットでAIドリルを使った朝学習を5教科で行う。
- ・校内コンテスト(漢字・スペリング・計算)を実施し、コンテスト期間は毎日、家庭学習、朝学習に取り組みながら、基礎・基本を身に付けられるようにする。
- ・放課後補習、放課後自習教室を全教員で行う。
- ・サマースクールでは、苦手分野の克服を目的として、少人数指導や個別指導を徹底して行う。

# 第九中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	72.2	61.4	71.1	78.5	74.3	85.3	76.7	67.5	69.9	62.3	44.4	60.5
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	72.4	66.3	63.4	80.0	76.4	83.6	75.7	58.6	52.7	60.6	63.9	53.5
平均正答率(R6)	69.5	52.5	67.0	66.0	69.1	88.8	70.3	51.4	62.9	71.7	38.7	59.6
平均正答率(R5)	75.2	55.5	61.9	77.5	71.3	74.9	74.7	45.8	58.3	73.4	47.7	57.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

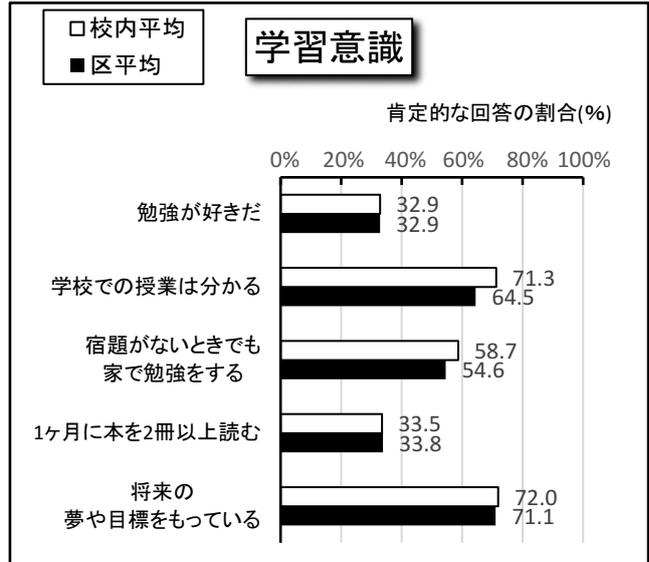
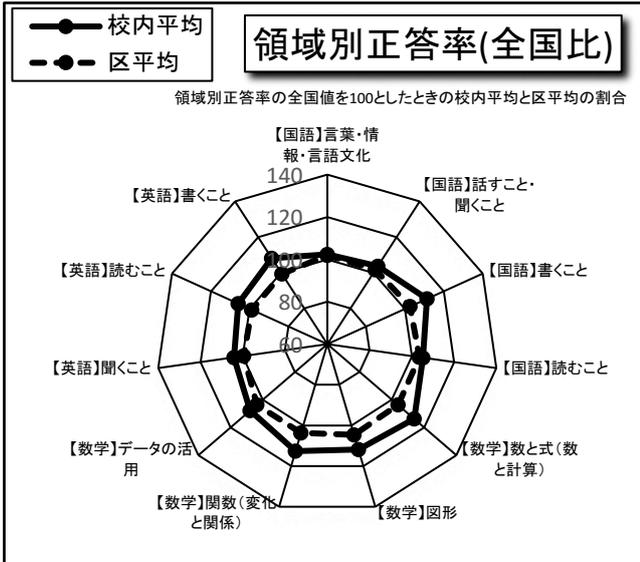
## 「学習定着度調査」分析結果

- 今年度、各教科を合計した学校全体の通過率は68.2%で、昨年度の67.3%を0.9ポイント上回った。国語、数学ではマイナスとなってしまったが、英語は7.7ポイント上昇した。
- 学年・教科別に見ると、1・3年生の国語および1～3年生の英語は、すべて区通過率および区平均正答率を上回った。特に2年生英語は、区の通過率を16.5ポイント上回った。
- 各教科での通過率は前年度と比較し、それぞれ増減が見られるが、全学年英語については昨年度より大きく上回っている。一方3年生の数学では19.5ポイントの減少となり減少幅が大きくなっている。
- 領域別正答率は、数学における「図形」と「関数」の領域が若干下回っている。
- 学習意識の結果を見ると、「1ヶ月に本を2冊以上読む」と答えた生徒の割合が区平均を上回った。昨年度は、区平均を5ポイントほど下回っていた。
- 「勉強が好きだ」と答えた生徒の割合は区平均を2.5ポイント下回り昨年度と同様の開きがあった。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 各教科で、AIドリルを活用した朝学習や課題などの取り組みを継続して実施する。
- 国語では、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価する活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりする。また、自らが考えたことを文章化したり、他者に説明したりする力を身に付けさせる。
- 数学では単元ごとに基礎的な知識・技能を確認するテストを行い、理解が不十分な生徒への個別対応を行う。また発展的な問題に対して、自身の考えを他者に伝えたり、発表したりする場面を多く設けて学び合いを深める機会を確保する。その際、自力解決の時間も併せて確保することで、数学的な見方・考え方の力も伸ばしていく。
- 英語ではペアでの活動やグループでの活動を通して、語彙力を身に付けるなど、昨年度の活動を継続する。さらにコンテストなども実施し、発表活動も取り入れていく。
- 朝学習とともに朝読書も実施し、読書習慣の確立を目指していく。

# 第十中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	71.3	71.4	72.5	77.5	82.4	85.9	82.3	79.6	70.7	54.4	52.7	61.2
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	73.3	72.9	67.9	78.4	78.4	77.2	80.7	68.7	60.7	60.5	71.8	65.8
平均正答率(R6)	69.7	59.2	69.2	66.1	74.3	89.6	72.4	60.2	63.9	70.6	42.7	62.1
平均正答率(R5)	76.4	59.2	66.8	77.2	72.9	75.4	76.7	52.3	63.6	75.3	51.4	64.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

## 「学習定着度調査」分析結果

- 平均正答率では、ほとんどの教科で区平均を上回ったが、一部の教科には課題がみられる。領域別正答率では、英語と国語の「書くこと」の項目がどちらも区平均を上回っているため、書くことが得意な生徒が多いといえる。
- 学習意識調査では、「授業が分かる」と答えた生徒が70%を超えている。5教科を中心に計画的・継続的に学習内容の復習を行った成果である。昨年度からAIドリルも積極的に活用し始めたことで、学習意識も高まっている。「勉強が好き」「家で勉強をする」「夢や目標を持っている」と答えた生徒が区平均と同じ、もしくは上回った。今後も学習の意義を理解させる指導を継続し、学習意識を高めていく。「1ヶ月に本を2冊以上読む」と答えた生徒が区平均を下回った。朝学習の読書週間を継続して行い、読書する習慣を定着させていく。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 国語:朝学習などを利用して漢字の読み、書き、熟語の構成、文法を中心に基礎的な知識を定着させる。読解については正確に読み取る力と、条件に従って回答する力を積み重ねる。
- 数学:朝学習では授業の内容を吟味し、AIドリルやプリントを活用して、既習の単元の復習を図る。また、3年生では毎日の家庭学習用プリントを配布し、学力定着に努める。
- 英語:多読・速読教材を活用し、読む力を高めるとともに、基本文などの短い文を繰り返し練習させ、書く力を高めていく。ポートフォリオを活用し、毎時間の振り返りをするとともに、学習内容を記録させ、次の授業につなげていく。
- 朝学習では5教科の復習に取り組むことで、全校生徒の「学習に真面目に取り組む態度」を育成するとともに、「日々の学習習慣」を確立させ、卒業までに下記の最大限の学力を身につけさせる。

国語:基本的漢字の読み書きの力:読み 中学校学習の1623字、書き 小学校学習の1026字程度

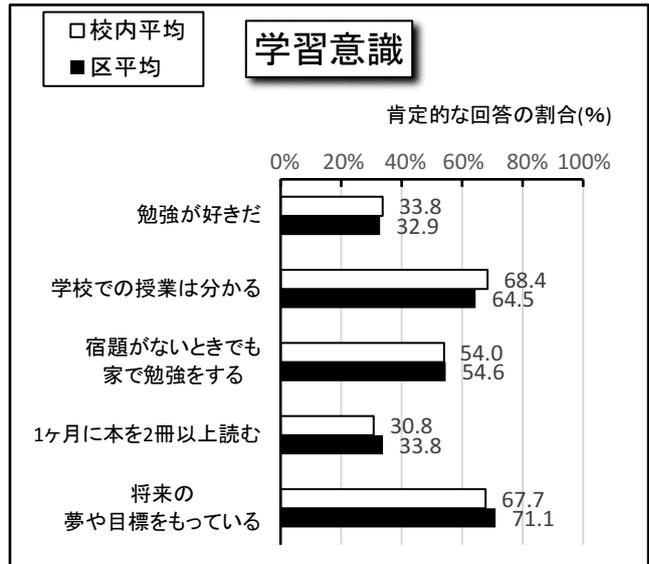
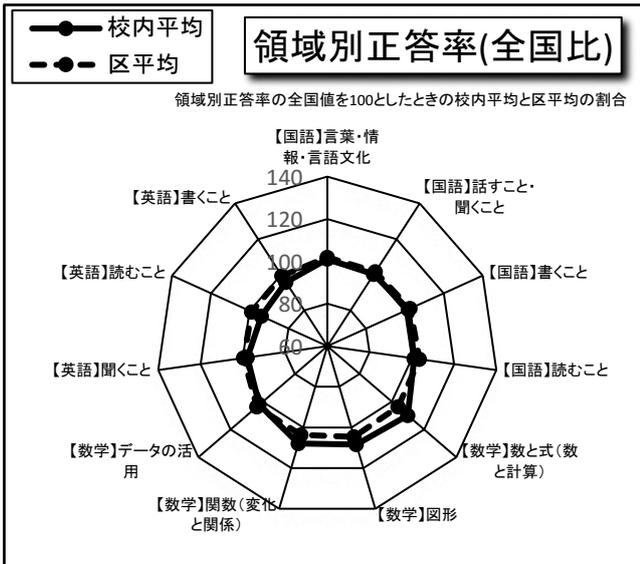
数学:正負の数、文字式、方程式の計算:都立入試大問1(基礎・基本の問題)程度の理解

英語:1200語程度の単語の定着:CEFR A1(英検3級)程度の理解

社会:地歴公民分野の重要語句の理解:重要語句、基本的な地名の理解

理科:科学に関する基礎的な概念の理解:都立入試大問1(基礎・基本の問題)程度の理解

# 第十一中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	68.7	68.9	59.6	71.8	71.8	75.6	74.9	71.4	54.3	60.8	64.3	51.8
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	73.1	74.8	59.0	78.0	80.1	72.6	81.6	79.6	47.4	59.8	64.9	57.7
平均正答率(R6)	67.9	56.2	61.8	62.6	67.9	87.1	68.9	54.3	54.7	71.4	48.0	55.6
平均正答率(R5)	76.1	59.1	62.4	75.7	71.7	73.4	77.6	57.2	57.2	75.1	48.1	61.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

意識調査の結果から、本校生徒の学びの基礎力はある程度確立されている。「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」は、区の平均値を上回っており、他の質問項目は、区の平均値とほぼ変わらない。学びの向上に関しては、いずれの学年も意欲があると推察される。

「学習定着度調査」結果は、母体が異なるため、単純に比較することはできないが、2年生の伸びが顕著である。例えば、英語の通過率は、昨年度は全国比-8.2ポイントであったが、今年度は+2.8ポイントであり、これまでの取り組みの成果が現れた数値と捉えることができる。

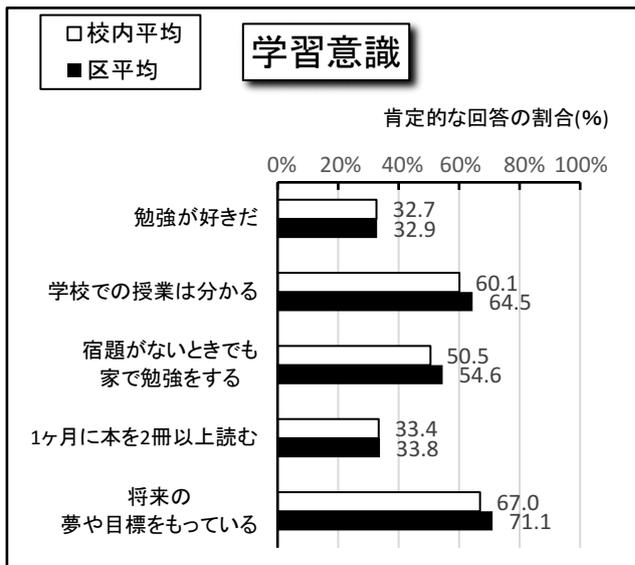
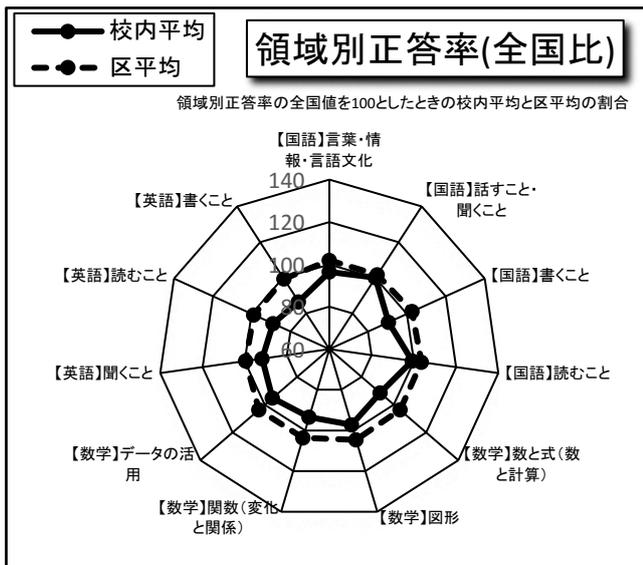
教科の「好き嫌い」では、数・英は全学年ともA層とD層の差が大きい。2年生数学、3年生英語の結果には課題があり、教科の理解度との関連性が高い結果となっている。A層とD層の差は、3年生数学が38.0ポイント、2年生数学38.7ポイント、3年生英語54.0ポイントとなっており、この差を縮める取り組みが必要と考える。Google Workspace for Educationの活用、単語や計算コンテスト、A Iドリルなどを強化していきたい。

## 学校による学力向上への主な取り組み

上記の分析結果に基づき、以下の取り組みを展開する。

- 1 A I ドリルの積極的な活用による知識の定着
- 2 Google Workspace for Educationを活用した学習の推進: 思考力・表現力の向上
- 3 学校図書館司書と連携した朝読書活動の充実: 読解力の向上
- 4 学力定着指導員との連携: 3教科(国語、数学、英語)担当教員の指導力の向上
- 5 授業力向上研修の実施
- 6 定期考査前質問教室の実施
- 7 足立スタンダードに基づく授業の実施
- 8 金曜テスト・月曜補充の継続
- 9 各種コンテストの実施

## 第十二中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	63.9	58.8	52.0	73.6	79.2	78.3	64.9	54.5	29.9	54.0	42.5	42.5
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	65.0	60.5	51.5	65.5	67.1	65.9	74.1	52.8	43.5	55.6	63.0	48.1
平均正答率(R6)	65.3	50.7	57.6	62.7	68.6	86.6	64.7	43.5	42.1	68.0	37.3	51.2
平均正答率(R5)	73.0	51.0	58.3	71.3	62.6	69.2	74.3	45.9	55.8	73.0	46.1	55.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

### 「学習定着度調査」分析結果

国語は、学校全体の平均正答率を昨年度と比較すると、7.7ポイント低下している。なお、学年別に見ると、通過率は3年生が特に低く、1年生と比較すると19.6ポイント下回った。領域別正答率を見ると、全ての学年で、「書くこと」の正答率が区平均よりも低いことから、個別指導等で記述式の問題演習を多く取り入れていく必要がある。

数学は、どの領域も区平均を下回った。特に「数と式(数と計算)」の領域を学年別に見ると3.2~9.7ポイント区平均を下回っており、基本的な計算の困難さから、他の領域の設問の正答率の低さにつながっていることも考えられる。

英語は、どの領域に関しても区平均を4.1ポイント~14.4ポイント下回っており、その中でも「書くこと」の正答率が低いことがわかる。小学校の外国語活動を通して、話す・聞く力は身につけている生徒が多い。しかし、文字を読んだり書いたりすることは中学校に入ってから学習が中心であるため、小学校とのギャップを埋めていくことが、正答率や通過率を上げることにつながるのではないかと分析する。

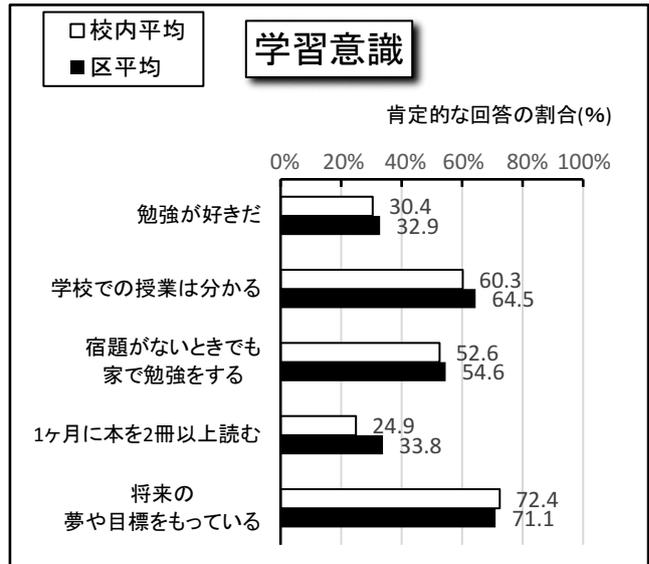
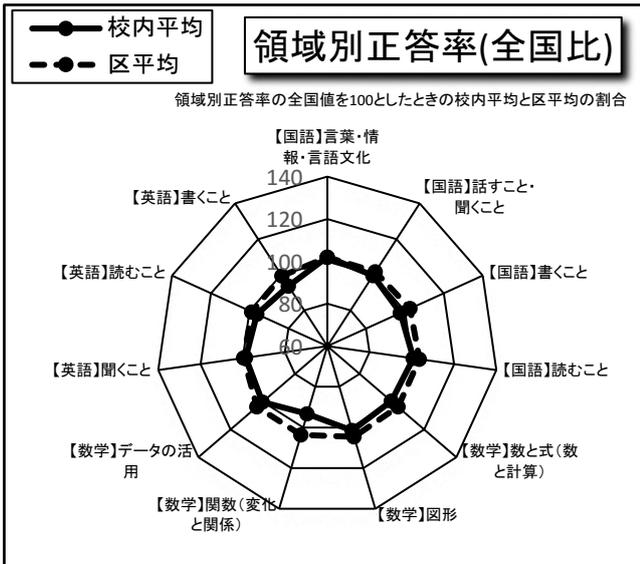
### 学校による学力向上への主な取り組み

国語は、授業内における話し合い活動などを通して、自分の考えを文章にする練習を取り入れ、文章を記述することの習慣を身につけ、「書くこと」について自信をつけさせる。また、朝読書を継続的に行うことや漢字コンテストを学校全体の取り組みとして行うことで、語彙力の向上を図り、言語活動を充実させていく。

数学は、基本的な計算力の向上が最優先課題である。そのため、サマースクールや放課後の補習を利用して、基本的な計算力に課題のある生徒に対して、AIドリルなどを活用した補習を行う。また、学年ごとに計算問題のテストを実施して、合格点に満たない生徒には合格するまで繰り返し補習を行い、確実に計算力を高めていく。

英語は、特に1年の前期において、アルファベットやフォニックスの練習を繰り返し行い、文字と音を一致させるよう指導している。教科書の内容理解は、まずピクチャーカードを見ながら本文を聞き、音からの理解を増やすようにしている。また文法事項はAIドリルを使用することで、繰り返し取り組ませ、定着を促している。

# 第十三中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	72.6	60.4	59.4	72.4	70.3	78.4	77.7	65.6	42.2	67.8	45.0	57.2
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	68.7	70.5	57.3	69.8	75.1	70.4	80.7	69.6	48.6	55.1	66.5	52.3
平均正答率(R6)	67.1	52.7	61.9	60.5	66.4	86.8	69.1	50.7	50.5	72.0	39.4	57.1
平均正答率(R5)	73.7	56.5	61.4	70.7	69.4	71.3	77.8	52.4	58.0	72.7	45.6	58.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

領域別正答率は全体的に区平均をやや下回っている。特に数学「関数」は、区平均・全国値ともに下回っていることから、底上げが喫緊の課題である。

通過率は、1・3年生の国語と英語で前年度より3%～最大12%の向上が見られた。一方で全ての学年で数学の通過率は前年度より低下しており、苦手感が見受けられる。

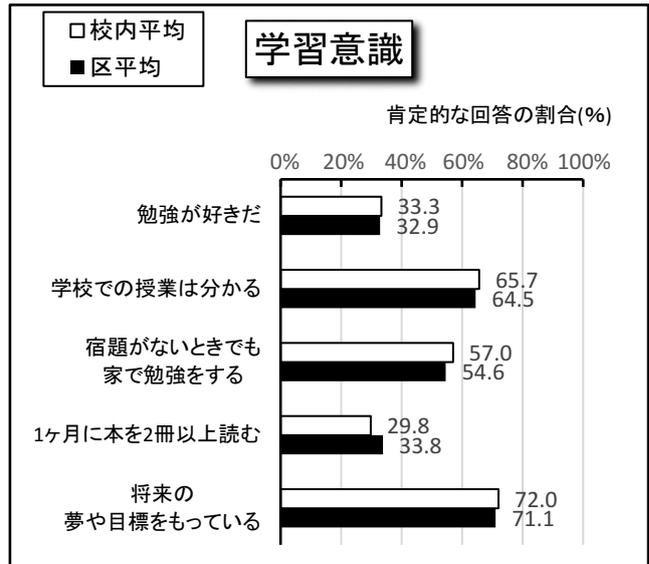
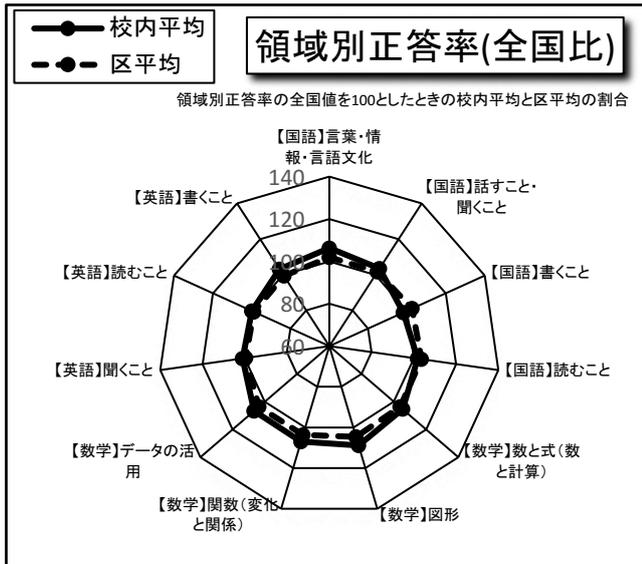
1年生は、数学の通過率および平均正答率いずれも前年度を下回っており、領域別正答率を見ても全ての領域で区平均を下回っていることから、まずは計算力の強化が必須である。2年生に関しては全ての教科の平均正答率が前年度を下回っているため、さらなる全体的な底上げが必要である。

学習意識を見ると、「学習」に関する項目は区平均を1割程度下回っている。「読書」についても昨年度より2.9ポイント下回り、家庭におけるスマートフォンの長時間使用が読書の時間を減らしている可能性がある。「将来の夢や目標」が区平均を1.3ポイント上回っているのは、本校のキャリア教育が反映されたと捉えている。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- ・現在実施している「数学の習熟度別授業(1・2年生)」の成果が数量・計算分野に反映され始めてきたので指導を継続していく。
- ・本校はA Iドリル「Qubena」を朝学習や授業、家庭学習で活用しているため、利用率は高い。また、ICTを活用した授業の実践も継続して実施している。これが国語・英語の通過率向上につながったと考えられるので、引き続き活用していく。苦手とする「関数」に関しても、基礎的な問題に繰り返し取り組ませることで、理解力向上を図る
- ・今年度より新たなA Iドリル「Monoxer」を導入した。「Qubena」で基礎的な知識を身につけ、「Monoxer」で定着力の強化をめざす。
- ・本校では1年生の「職業人の話を聞く会」で職の知識を身に付け、2年生で「職業調べ」と「職業体験」で職に関する見聞を広めさせている。今後も連続性をもたせたキャリア教育の充実に努める。

# 第十四中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	72.7	69.3	66.2	74.7	77.9	80.0	83.1	79.2	62.0	58.3	47.9	55.5
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	73.2	68.2	70.0	76.5	81.3	80.2	75.9	62.5	53.6	66.5	58.1	74.4
平均正答率(R6)	69.4	57.4	66.3	63.5	70.0	87.7	75.4	59.9	60.9	69.0	39.3	57.6
平均正答率(R5)	76.4	57.5	67.9	77.3	75.1	76.3	76.1	47.7	59.7	75.6	44.2	69.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

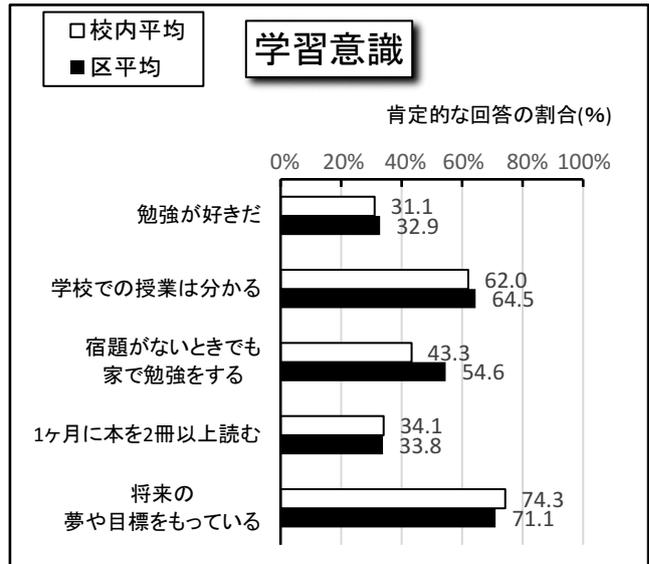
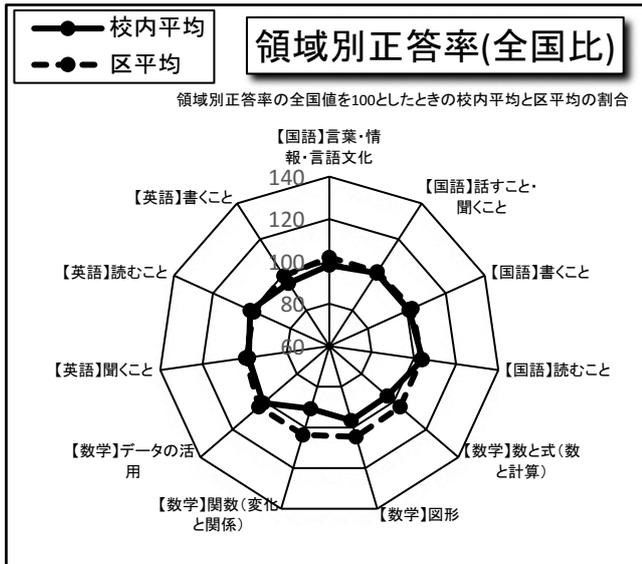
## 「学習定着度調査」分析結果

- 領域別正答率をみると、全国比ではすべての領域で上回っている。区平均と比べると、ほぼ同水準であるが、国語の「書くこと」が4.4ポイント「読むこと」が1.8ポイント区平均を下回っている。
- [1年生] 通過率は3教科ともに高水準である。
- [2年生] 国語・数学の通過率は高水準である。特に国語は経年変化でみると6.6ポイント上昇している。英語の通過率は62%となっており、経年変化でも18.2ポイント低下した。
- [3年生] 通過率はどの教科も60%を下回っている。経年変化をみると国語は17.6ポイント、数学は14.6ポイント低下した。
- 学習意識に関しては、読書の機会の減少が区平均より顕著に表れている。国語の「読むこと」への強化も視野に入れ、朝学習の時間に読書をする期間を取り入れていく。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 国語の「書くこと」に関しては、「文のねじれ」の生徒が多く見られる。授業中の書く時間を増やしていく。また、200字作文にも取り組む。
- 数学と英語は、基礎・基本の徹底を図るために、サマースクールでの個別指導を行う。
- 漢字・計算・スペリングコンテストなどの各種コンテストを行い、多くの生徒が満点や合格点を取れるように指導し、成功体験を創出する。
- 朝学習や授業中にA Iドリルを使用し、積極的応答、即時確認、スモールステップ、自己ペースの原理を最大限利用する。
- 教職員の授業力を高める取り組みとして、近隣の3つの小学校と連携し研究授業を行っている。また昨年度からは、校内で他教科の授業をお互いに見学し、協議会を行うことで、新しい視点からの効果的な授業の実践に取り組んでいる。
- タブレット端末への課題の提供を行うなど、家庭学習に取り組ませる。

# 青井中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	67.3	64.5	67.3	69.6	71.7	71.7	55.2	44.8	34.5	74.3	71.4	88.6
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	64.9	74.2	60.8	51.6	51.6	54.8	86.5	89.2	86.5	51.7	79.3	34.5
平均正答率(R6)	66.9	53.0	66.8	60.4	63.9	83.0	62.4	35.3	42.5	79.1	52.0	73.2
平均正答率(R5)	73.7	55.8	62.5	64.7	55.4	65.1	82.4	62.1	73.4	72.2	48.5	47.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

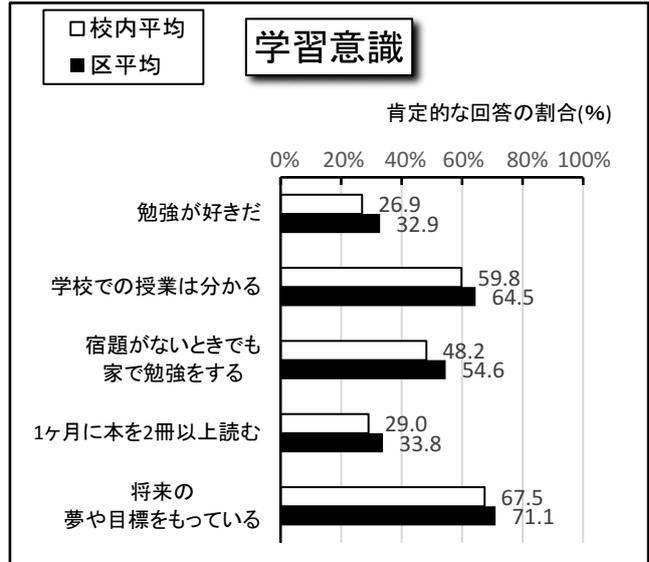
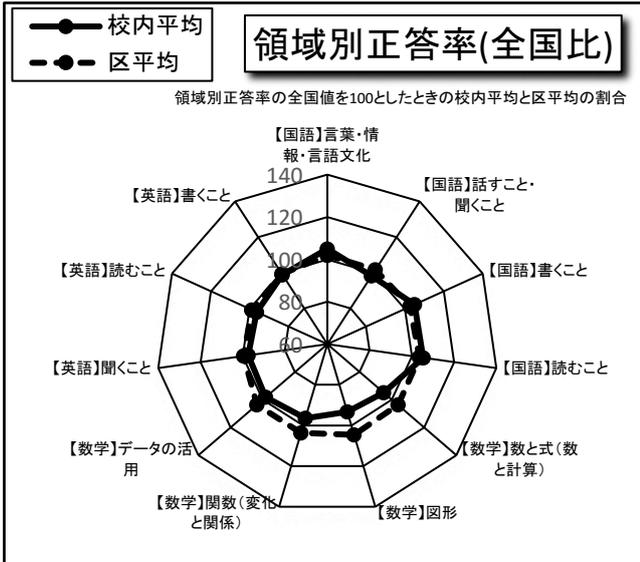
## 「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の平均正答率は、昨年度より英語は上がったが、国語・数学共に下がっている。
- 通過率は1・3年生に比べて2年生が低い。1年生はある程度、小学校で学びの基礎ができていると考えられる。同一集団を経年比較すると、2年生は昨年度に比べて国語の通過率は上がったが、数学・英語は下がってしまった。3年生は3年連続3教科共に通過率が高く、高いレベルを維持できている。数学で実施している少人数授業の成果もあると考えられる。
- 学力層の割合を見ると、1・2年生はA層とD層の差が非常に大きく、学力状況の二極化が進んでいる。3年生はABC層とD層の差が広がっているが、どの層も基礎の定着はできていると考えられる。
- 1・2年生のD層は学習習慣が身につけていない。学習に対する目的意識・興味関心をもたせる指導の工夫と対策が必要である。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 国語・数学・英語・社会・理科の5教科で、家庭学習の定着を図るためAIドリルを活用した課題学習を行っている。定着状況を確認するため、1週間に1回、前週分の確認問題を放課後に全員対象で行っている。
- 数学では、全学年で少人数授業を実施し、生徒の学力に合わせた授業を展開している。また、振り返りシートと単元テストを活用し、随時定着度を計り授業の改善に生かしている。
- 読解力を身につけさせるために、毎朝10分間の朝読書を徹底している。
- 各授業で、ペアワークやグループワークを導入し、生徒が主体的に学ぶ意欲を育てている。
- 漢字検定・英語検定・数学検定を学校で実施し、資格取得を奨励している。
- 道徳・特別活動・キャリア教育(進路指導を含む)を通して、自己肯定感や自尊心を高める指導に力を入れている。
- 各授業でICT機器を積極的に活用し、生徒が自ら調べまとめることで、生徒が主体的に学ぶ意欲を育てている。

# 伊興中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	72.3	61.8	58.7	68.8	71.3	70.2	77.9	68.9	44.2	70.6	42.5	60.1
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	71.4	61.2	61.2	74.3	76.0	77.7	84.2	55.1	55.1	55.8	51.2	49.4
平均正答率(R6)	68.9	52.0	64.4	61.4	65.5	84.4	71.4	50.0	52.0	75.3	36.5	61.9
平均正答率(R5)	75.6	52.6	61.8	74.4	69.0	73.4	80.2	44.0	60.4	72.4	41.5	55.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

## 「学習定着度調査」分析結果

【国語】正答率は区の値を1年生は2.2ポイント下回り、2年生は0.8ポイント、3年生は4.1ポイント上回った。1年生では特に「書くこと」に課題があり、無回答率が高いことから書くことへの抵抗感を減らしていく必要がある。2年生では特に「言語文化」に課題があり、歴史的仮名遣いについての定着を図る必要がある。3年生では特に「話すこと・聞くこと」に課題があり、要点のメモをとりながら話を聞く練習をする必要がある。

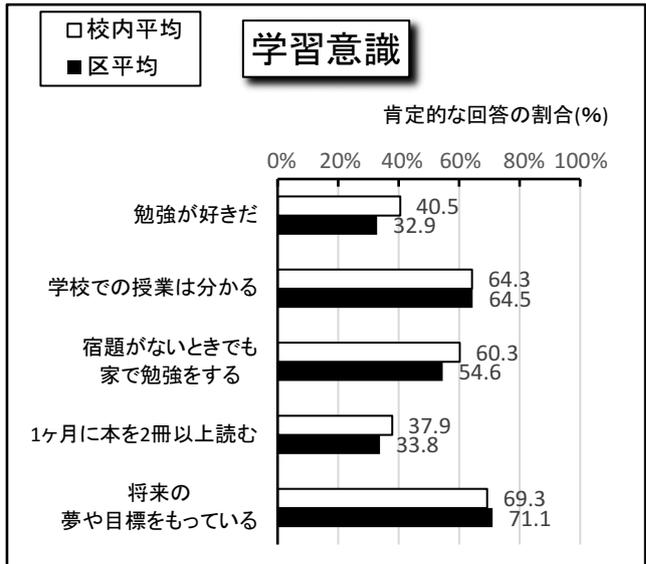
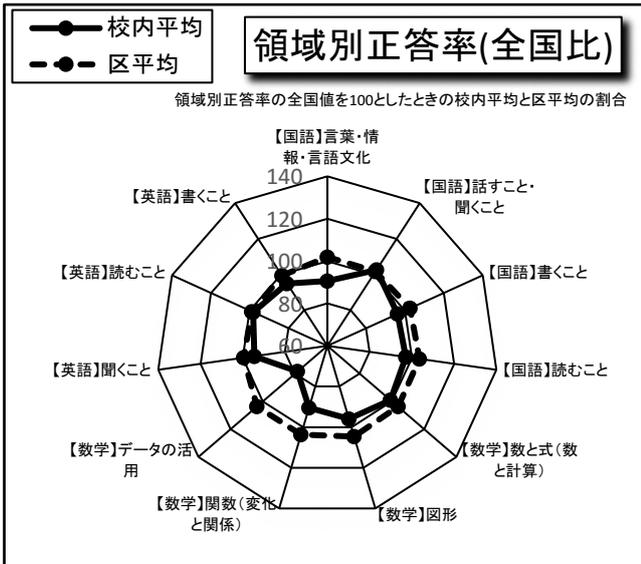
【数学】正答率は区の値を1年生は4.4ポイント、2年生は2.2ポイント、3年生は6.1ポイント下回った。2年生は「図形」に課題があり、1・3年生は基礎的な数的処理能力に課題があり、基礎的・基本的な計算について重点的、継続的な取り組みが必要である。

【英語】正答率は区の値を1年生は3.3ポイント、2年生は3.1ポイント下回り、3年生は2.6ポイント上回った。1年生は「読むこと」、2年生は「書くこと」に課題があり、A層とD層の差が大きく、学力が二極化している。3年生は「書くこと」が4.4ポイント上回り、1年次から、やり取りの後に会話した内容を書いてまとめる活動を継続して行ってきた成果であると考えられる。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 朝読書：毎朝10分間の朝読書を主体とし、新聞記事の活用を通して言語能力の育成を図る。
- 家庭学習、AIドリルの活用：基礎的・基本的な内容の定着のため、毎週、国語・数学・英語・理科・社会のワークシートを作成し、家庭学習に取り組む。
- 補充教室：AIドリル課題や各教科学習課題、定期考査前の補充学習を行う。
- 3科コンテスト：漢字、計算、英単語のコンテストをそれぞれ年1～2回実施し、基礎学力の定着を図る。
- サマースクール：調査結果や学習進捗につまずきのある生徒を対象に補充学習を実施する。
- 中1夏季勉強合宿(通所型)：区学力調査で正答率40%未満の対象生徒に、小学校の算数から中学1年生の内容までの補充学習を行う。
- 伊興スタンダードの実施：挨拶・話の聞き方、授業規律を示し、全学級共通実践を図る。
- 校内研修の取り組み：学習のめあてを自分事として捉え、見通しをもちながら課題に取り組む「足立スタンダード」に基づいた授業の実践を行う。

# 入谷中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	70.4	50.0	56.4	80.0	53.3	86.7	63.2	42.1	42.1	70.0	55.0	47.6
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	51.8	40.0	44.7	57.9	57.9	63.2	69.2	50.0	30.8	37.5	25.0	45.0
平均正答率(R6)	64.4	48.1	58.6	59.0	59.5	88.6	62.0	43.7	51.7	70.5	43.0	51.5
平均正答率(R5)	67.8	39.4	54.0	65.2	57.5	71.2	71.0	40.7	50.6	66.9	29.4	51.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

【国語科】令和5年度と比較して、1・3年生は通過率が大きく上昇した。2年生は平均正答率・通過率ともに下降していることから、丁寧な傾向分析・指導の見直しを行う。

【数学科】令和5年度と比較して、1年生は、通過率が4.6ポイント減少しており、目標値が低下した中、平均正答率が2ポイント上昇していることから二極化の初期状況であることが予測される。2年生の通過率は、7.9ポイントの減少が見られるが平均正答率は3ポイント上昇した。このことから、大多数の生徒が数学に対して、課題があることが予測される。3年生に関しては、通過率が30ポイント上昇し、平均正答率も前年度を上回っていることから著しい変容が見られる。

【英語科】令和5年度と比較して全学年、通過率が上昇している(1年生:23.5ポイント増、2年生:11.3ポイント増、3年生:2.6ポイント増)。様々なタイプの文章を読むことで、英文を読むことについては慣れてきたが、自分の考えを表現するタイプの問題では苦手意識を持つ生徒が一定数いる。

## 学校による学力向上への主な取り組み

【できるをふやすタイム】朝学習で、英語と数学を中心に基礎学力の定着を図る。その結果を受け放課後の補充を行う際には、生徒同士の教え合い活動も行う。

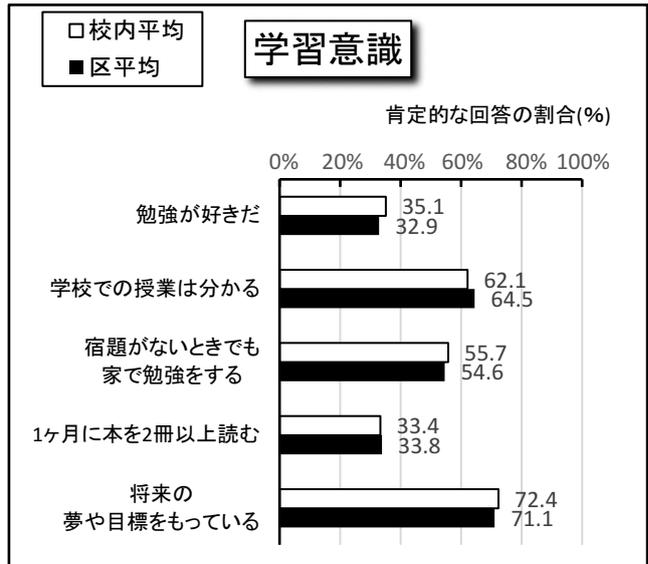
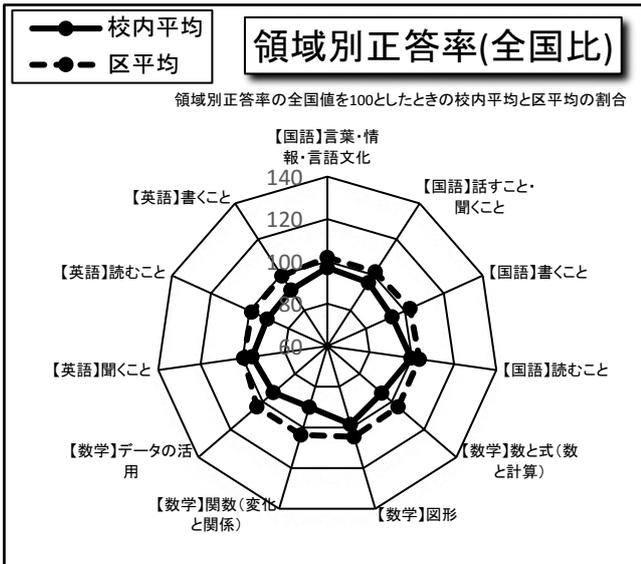
【わくわく補習教室】全学年・5教科 定期考査前1週間・三者面談期間50分 指名+希望 全教員による補充問題。

【国語科】授業の初めに、毎時間漢字テストを実施している。授業中に話し合い・学び合い活動を多く取り入れるほか、ICTも活用し言語活動の充実を図っている。

【数学科】足立スタンダードに基づいた問題解決の授業を実践していく。毎時間のノート点検や丸つけ法を駆使して、生徒の実態を常に把握し、その実態に合わせ、課題内容を変更したり、教具やICT機器を活用したりして、生徒の学びに向かう力を育てていく。

【英語科】授業の初めに、基本的な英単語の確認や、身近なことについて即興で会話をする練習をしている。また振り返りを行って、生徒の不得意な箇所を把握し、その箇所を重点的に取り組んでいる。また朝学習の時間を活用し、基本語句の確認を毎日行っている。

# 入谷南中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	62.8	58.1	55.0	70.9	72.1	75.7	71.8	61.5	43.3	46.4	41.2	45.6
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	60.7	57.3	54.2	67.6	62.2	65.8	62.5	56.2	47.1	52.2	53.9	50.4
平均正答率(R6)	64.9	49.9	59.5	61.6	68.0	87.4	66.6	46.2	48.7	66.5	34.4	52.2
平均正答率(R5)	71.2	49.8	59.9	70.2	63.0	68.7	70.6	45.4	57.7	72.9	40.8	57.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

国語に関して1・2年生は通過率が令和5年度よりも上がっており、かつ70%を超えている。一方で、領域別正答率は区平均を下回っている。そのなかで「読むこと」は区平均に近い点数を上げている。「書くこと」の得点が低いので、今後は「書くこと」の向上を図る必要がある。3年生は通過率が50%を下回る結果となっており、全般的に底上げする必要がある。

数学において、区平均との平均正答率の差は、1年生が1.9ポイント、2年生は6.0ポイント、3年生は8.2ポイント下回った。特に1年生ではデータの活用、2年生と3年生は「関数」の領域で平均正答率が低かった。1年生と2年生は通過率と平均正答率が昨年度より上回ったが、3年生の平均正答率が34.4%と昨年度を6.4ポイント下回り、どの領域でも課題が残った。

英語に関して校内平均と区平均を比較すると、1年生は0.3ポイント、2年生は6.4ポイント、3年生は7.1ポイント、下回っている。領域別正答率では、1年生は「話すこと・聞くこと」と「読むこと」が区平均を下回っている。2年生、3年生は、3つの領域で区平均を下回っているため、特に学力向上への取り組みを徹底する。

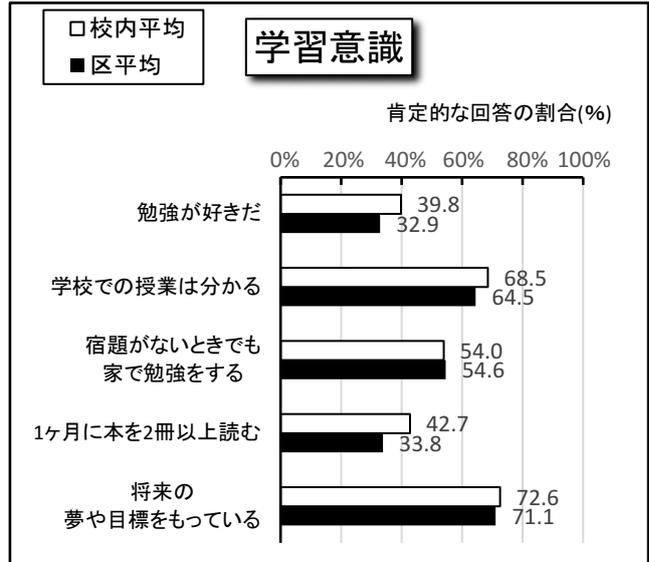
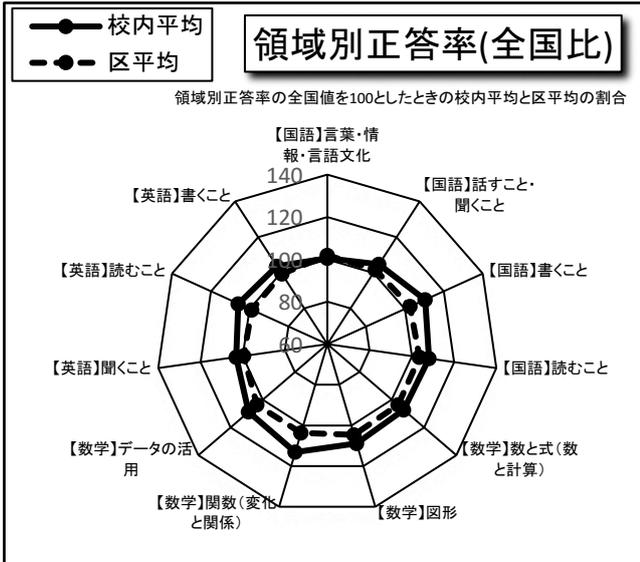
## 学校による学力向上への主な取り組み

国語に関しては小学校既習の漢字をルーティンで書き取りを行い、知識の定着を図るとともに、語彙力の向上を図る。ICTを適宜使い、書くことが苦手な生徒でも苦手意識を感じさせないような授業を行い、文章力の向上を図る。副教材を用いて、読解の練習の機会を授業の中で確保する。また、グループでの課題解決学習を行い、まとめる力や発表する力を養う。

数学に関しては、特に計算からつまづいている生徒が多いため、毎日の昼休みや考査前後の放課後に補習を行っている。区調査や定期考査、授業内小テストなどの成績をもとに、習熟度別に課題を用意して個別に補習を行っている。サマースクールで対象生徒に対し弱点を補うような課題と個別指導を行っている。授業内でもAIドリルを使って反復練習を行っている。

英語に関しては、聞くことと読むことの活動で、概要や要点などを掴めるようにする。そして、自分の考えやその理由・根拠を英語で話したり書いたりし表現する練習を行う。書くことの活動を行う際は、自分の考えやその理由を話した後に、それらを書く初歩的な活動を行う。また、話した後に、自分の意見を整理した上で書く練習を継続する。

# 扇中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	75.0	68.9	69.4	85.9	75.0	81.3	76.3	62.7	55.9	63.8	68.6	70.0
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	72.0	81.5	69.7	71.4	84.1	74.2	82.9	77.1	68.6	58.9	83.9	66.1
平均正答率(R6)	69.8	58.3	68.2	66.1	72.8	88.9	70.2	51.3	57.4	73.0	49.7	65.5
平均正答率(R5)	76.4	63.2	67.0	75.5	74.7	71.6	78.8	55.4	67.4	74.6	58.7	63.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

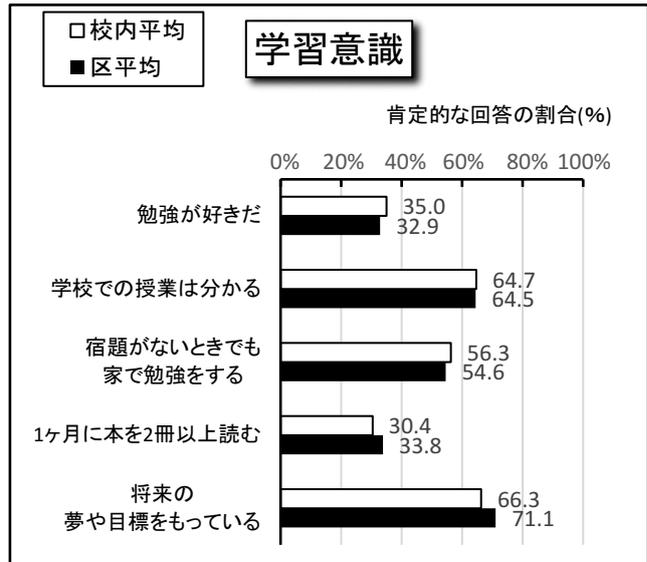
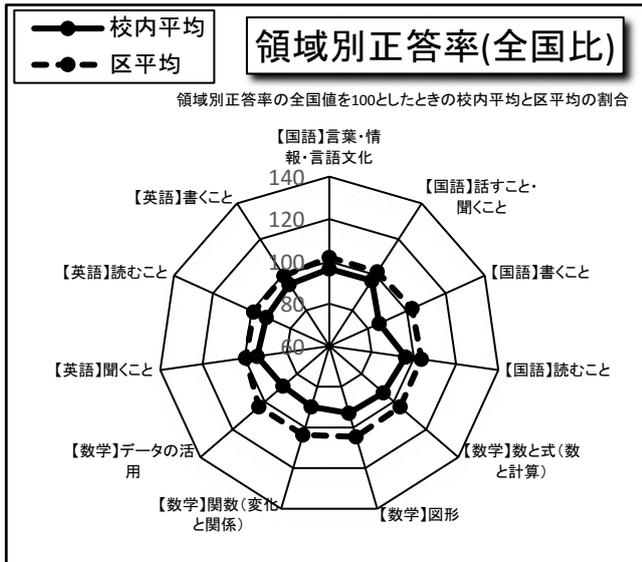
## 「学習定着度調査」分析結果

- 国語 1年生の通過率は区の平均よりも11.2ポイント、3年生の通過率は3.3ポイントそれぞれ高かった。3年生は、文章の読み取りはよくできていたが、漢字の読み書きが課題であることから基礎的な知識の習得に取り組ませていく。なお、2年生の通過率は、区の平均よりも1.4ポイント下回っており、「言葉、情報、言語文化」が課題である。
- 数学 通過率は、2年生はわずかに全国値を下回ったが、1・3年生が全国値を上回っており、特に3年生は区の平均よりも15.7ポイント高かった。なお、思考・判断・表現が、区平均を大幅に上回った。少人数習熟度別授業において課題解決に向けて自ら考えさせる指導、考え方や理由を言葉で説明する指導を強化したことが、成果として現れている。
- 英語 通過率は、1年生はわずかに全国値を下回ったが、2・3年生が全国値を上回っており、特に3年生の通過率は区の平均よりも11ポイント高かった。生徒のアンケート結果では「英語が好き」、「英語が分かる」という肯定的回答率が学年が上がるにつれ高くなっている。少人数習熟度別授業において、ペアワークやグループワークを効果的に実施し、英語で表現する機会を増やしたことや、教材・教具を工夫したことが成果として現れている。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 調査結果のSP表を分析し、個々の課題を明確にし、それを改善する授業を実践する。
- 授業において前時の内容の振り返りや、既習事項を盛り込む。また、ねらいの明確化や、発問・授業形態の工夫により、主体的かつ対話的な授業を実現する。
- AIドリルを活用した放課後の補充学習を充実させる。個々の課題について演習を中心にを行い、個別指導や少人数指導を充実させる。
- ICTを活用し主体的、協同的な学習を行う。また、小中学校の交流学习を計画的に行う。
- 夏季休業日中の6日間、国語・数学・英語・理科・社会の補充学習を行う。定期考査で解けなかった問題の直しや、授業で理解が不十分な内容について補充学習を行う。
- 家庭学習ノートを活用し、毎日自宅学習を行うことで、学習習慣を定着させる。
- 「興本扇の45冊」を選定し読書への関心を深めさせる。読書旬間として年2回実施する。また、読書カードの活用やおすすめの本カードを作成させ、読書活動を充実させる。

# 加賀中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	56.6	53.1	59.9	68.5	77.8	77.8	55.0	38.1	33.3	44.9	39.2	62.7
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	63.6	53.0	60.9	54.5	50.0	70.5	80.0	62.0	62.0	56.1	47.4	52.6
平均正答率(R6)	63.8	50.3	61.8	61.2	69.3	86.9	63.3	38.9	40.9	67.2	37.6	61.9
平均正答率(R5)	73.2	48.4	62.6	69.2	57.9	69.5	76.0	47.7	65.3	73.9	41.0	57.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

## 「学習定着度調査」分析結果

【学習意識調査】「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」「宿題がないときでも家で勉強する」の質問項目に対して、1・3年生は、全体的に肯定的な回答の割合が区平均より高い。

【全体】今年度、各教科を合計した学校全体の通過率は、56.5%であり、昨年度の学校全体の通過率59.1%に比べて、2.6ポイントほど下がっている。

【国語】3年生は、目標値と比べると、平均正答率が1.0ポイント下回った。また、全国平均の通過率との比較では、13ポイント下回っており課題である。2年生は1年次の通過率と大きな差はないが、通過率が、55.0%にとどまっており、基礎・基本の定着が課題である。全体的に、特に「書くこと」の数値が低く、重点的に指導を図る必要がある。

【数学】1年生は、区の通過率を約2ポイント上回っているが、2・3年は、昨年度の通過率に比べ、大きく下回っており、差が広がっている。基礎・基本の定着が課題である。

【英語】2年生は、1年次の際の通過率よりも下回り、差が広がってきているため、基礎・基本の定着が課題である。3年生は、区の平均通過率と比べ、3.7ポイント上回っている。

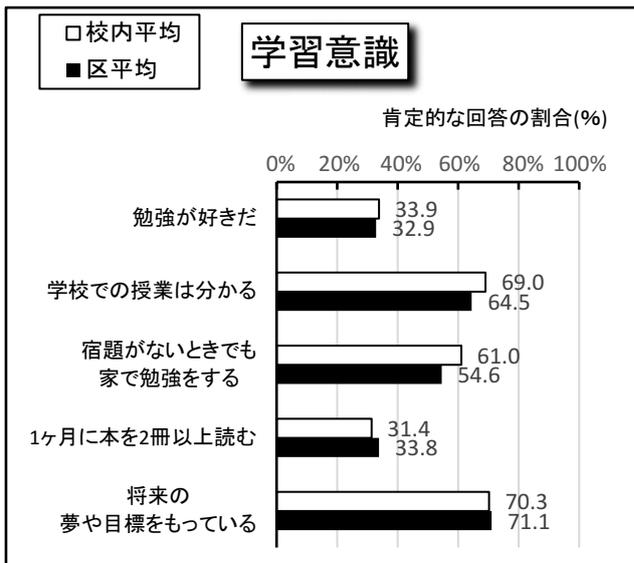
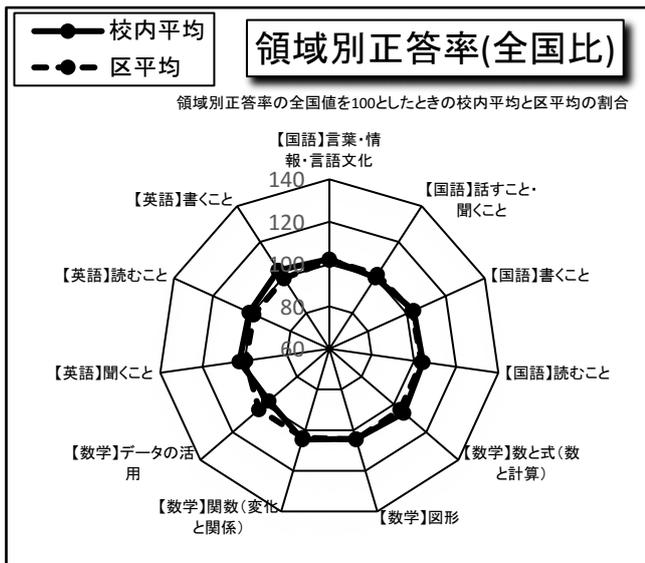
## 学校による学力向上への主な取り組み

【国語】基礎・基本の定着に課題があるため、普段の授業や課題での反復学習を徹底する。毎時間の授業では、「書くこと」の抵抗感をなくすために、課題に対するまとめを繰り返し書く活動を続けていく。また、書き方を学ぶ単元時間を十分に確保し、書く力の向上を図る。加えて、国語科教科通信を発行し、言葉に対する意欲・関心や目標意識を高めていく。

【数学】普段の授業や補充などで、基礎・基本の定着に重点を置いて取り組む。領域別正答率の「数と式」の領域については、全国の平均正答率には至っていないが、昨年度の平均正答率よりも上回っており、基礎・基本の定着に重点を置いて指導した結果が出ている可能性がある。分野によって数学的な思考力と表現力を高める話し合い活動についても充実させていく。

【英語】基礎・基本の定着に重点を置いて取り組むとともに、毎授業の帯活動などで、初見英文の読み取りやスモールトーク等を実施し、読む力や話す力の向上を図る。また、パフォーマンステストも含め、言語活動を積極的に行い、定期的に単元テストを実施し、定着度を確認する。さらに、グループワークやA Iドリルを活用し、主体的な学びができるよう取り組む。

# 蒲原中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	74.2	66.3	70.9	72.9	74.8	83.2	86.0	70.1	67.7	63.6	54.3	62.3
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	74.5	75.1	69.4	72.0	76.2	77.4	74.2	74.2	59.9	76.9	74.9	70.5
平均正答率(R6)	68.6	55.0	67.0	61.0	70.0	88.1	73.2	52.3	61.6	71.1	42.1	59.9
平均正答率(R5)	76.5	59.9	66.4	75.3	71.2	74.7	73.4	53.4	61.4	80.3	54.4	66.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

【3年生】3教科の通過率は、すべて全国値を上回っているが、昨年度の3年生と比較すると、数値は下がっている。学習意識の『勉強が好きだ』・『授業が分かる』・『家で勉強する』の数値が昨年度と比較して、下がっているため、授業改善をはじめとして、家庭学習に向けた指導にも力を入れていく必要がある。

【2年生】3教科の通過率は、すべて全国値を上回っている。特に国語、英語が全国値を大きく上回っている。また平均正答率では3教科すべての領域で全国平均を上回っており、特に国語の『読むこと』、英語の『書くこと』の領域では、全国平均を大きく上回っている。ただし、『書くこと』については、A層(上位層)とD層(下位層)の平均正答率の差が50%を超えており、二極化がみられるため、個に応じた指導にも力を入れる必要がある。

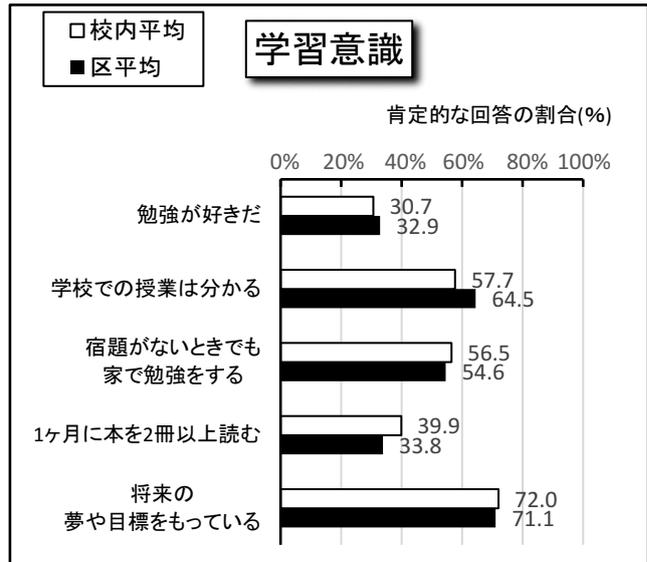
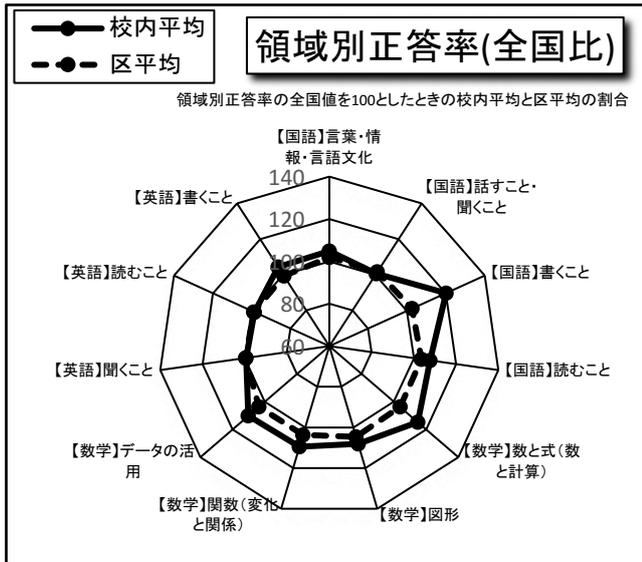
【1年生】3教科の通過率では、国語、数学において、全国平均を上回るが、区平均は下回っている。『学校に行くのは楽しい』の意識数値は高いため、授業や学力向上への取り組みを通して『よい成績をとれるように、勉強したい』の意識を改善していく。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学活終了後、8時30分から25分間の朝学習(学びタイム)を実施している。全学年で基礎学力定着を目的として学習に取り組み、漢字・計算・英単語の学習コンテストでは、満点賞を表彰し、継続的な学習習慣を身につけるようにしている。
- ・年4回の定期考査一週間前には、質問教室を開催し、放課後の時間に自習を行える教室を用意している。教科担当が巡回し、分からないところを質問できるようにしている。
- ・夏季休暇中に、「サマースクール(補習教室)」を開催している。学年ごとに6日間で設定し、選択制・希望制で実施し、各教科の基本的内容の定着を図っている。
- ・東渕江小学校、北三谷小学校との小中連携では、授業観察や研究授業を通して、9年間の学びを意識した授業改善を相互に行っている。
- ・保護者向けに評価・評定説明会を実施している。観点別評価の方法を説明し、教科学習への理解を深めていただいている。



# 江南中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	74.0	71.3	68.0	77.1	89.6	83.3	84.4	71.1	64.4	63.2	56.1	57.9
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	76.1	72.3	62.6	80.4	89.1	73.9	75.4	64.9	49.1	73.1	65.4	67.3
平均正答率(R6)	71.1	58.1	64.8	65.9	75.7	88.0	75.4	54.8	60.3	72.2	44.8	56.1
平均正答率(R5)	77.5	59.1	63.2	78.4	77.1	75.9	76.1	48.6	57.6	78.3	53.0	62.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

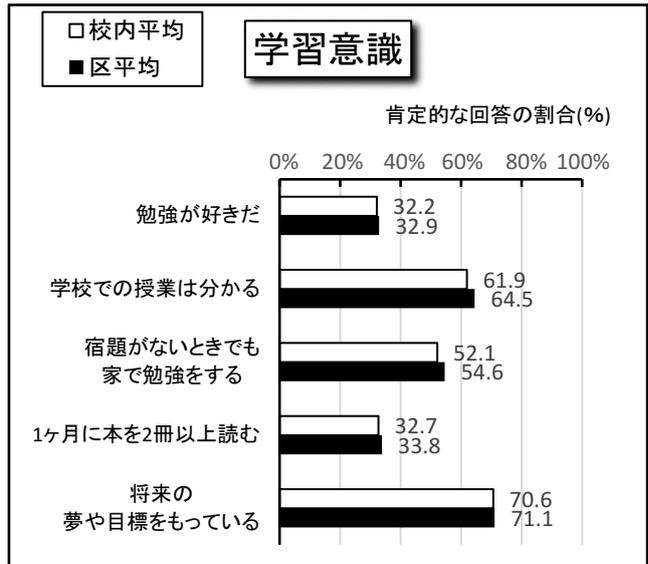
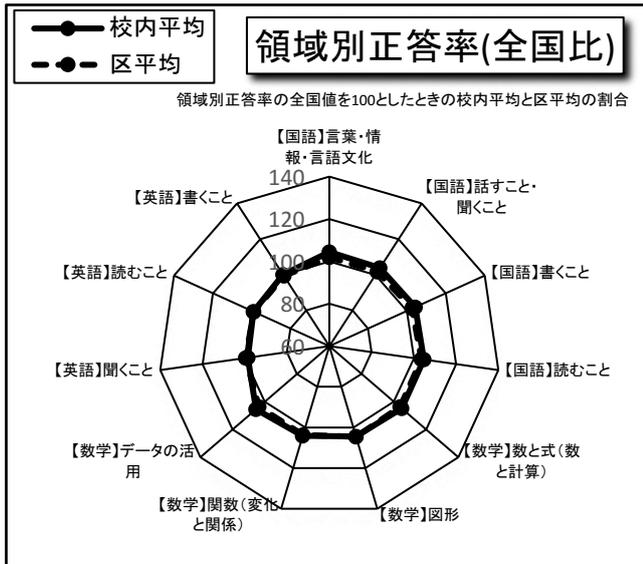
## 「学習定着度調査」分析結果

- 国語:全領域で、区平均を上回っている。特に「書くこと」の正答率は突出しており、前年度までの成果がうかがえる。「1ヶ月に本を2冊以上読む」生徒は、区平均を上回っているにも関わらず、「読むこと」の正答率は平均並みである。読み取りを教えるのではなく、読み取り方を教えていくことで、さまざまな文章に対応できるようにさせたい。
- 数学:全領域で、区平均を上回っており、特に「数と式」の正答率が高い。学年別の平均正答率は、1年生が+20.1、2年生が+13、3年生は+4.7ポイントと目標値を上回った。
- 英語:全領域、区平均、全国値を上回っている。他の領域に比べて「書くこと」の値が高いことから、さらに力を伸ばしたい。現3年生を経年で見ると、目標値と平均正答率の比較では2年生時に+0.5、3年生で+約4ポイントに、また通過率は、49.1%から57.9%へと8.8ポイント伸びた。現2年生の通過率が昨年度より減少しているので改善を図りたい。
- 学習意識:「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」の肯定的な回答の割合が区平均を下回っていることは課題である。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 朝読書…毎朝10分間の読書活動に取り組んでいる。その中の言葉を記録することで、語彙力の向上を図っている。また、その言葉を使うことで言語活動の充実に生かしていく。
- 放課後補充教室…昨年度から、全校生徒が25分間の補充教室に毎日取り組んでいる。AIドリルを活用し、学習、テストを実施し、つまずきのある生徒には、より丁寧な指導を行う。また、異学年交流を行うことで、学習への意欲を高めていく。
- サマースクール…7月までのつまずきを解消するため、少人数指導での、補充学習を行う。1年生には、夏季勉強合宿(通所型)も実施する。また、8月末に夏季休業中の課題が終了していない生徒に、課題を取り組ませることで、9月からのスムーズな登校を促す。
- 家庭学習…本校独自の家庭学習ノートを使い、家庭で、その日の授業で習ったことをすぐに復習する習慣を身につけさせる。担任が点検し、指導を行う。
- ICTの活用…大型モニターやタブレット端末などを使うことで、わかる授業を実施する。また、生徒自身に使用させることで、主体的に学習に取り組む態度を養う。

# 江北桜中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	71.9	66.1	63.9	66.9	72.3	83.1	84.5	75.5	53.2	65.8	50.8	52.9
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	71.8	71.5	60.2	80.0	80.9	80.9	76.7	65.8	52.5	59.0	68.4	48.7
平均正答率(R6)	69.4	56.1	65.2	62.8	67.8	88.0	73.9	57.5	55.9	72.5	41.1	58.1
平均正答率(R5)	75.9	58.4	62.0	77.6	73.1	74.5	75.1	50.2	57.8	75.2	51.6	58.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

## 「学習定着度調査」分析結果

### 【国語】

全学年目標値を越え、2・3年生は区平均を越えた。2年生では文学的文章の読解、3年生では漢字の読み書きに向上が見られた。1年生は区平均をやや下回ったが、漢字の読み書きを確実に定着させることでさらなる向上が見込める。

### 【数学】

全学年とも目標値を越え、2年生は全単元にわたって区平均以上の正答率だった。1・3年生は区平均をやや下回ったものの、1年生は活用力、3年生は連立方程式や平行線の単元の定着を図ることでさらに向上が見込める。

### 【英語】

全学年とも目標値を越え、1・2年生では区平均も上回った。3年生は区平均をわずかに下回ったが、聞き取りや英文記述の能力を定着させることでさらに向上できる。

## 学校による学力向上への主な取り組み

### ○朝のベーシックタイム

読書活動を通して語彙力、読解力、想像力の向上を図っている。また、学習コンテスト時期は朝学習を実施し、放課後の事後学習と合わせることで基礎学力が確実に伸びてきている。

### ○放課後補充の時間

国語、数学、英語を中心に通年で補充教室を実施している。定期考査前は各学年でテスト勉強の時間を設定し、帰宅後の家庭学習につなげている。

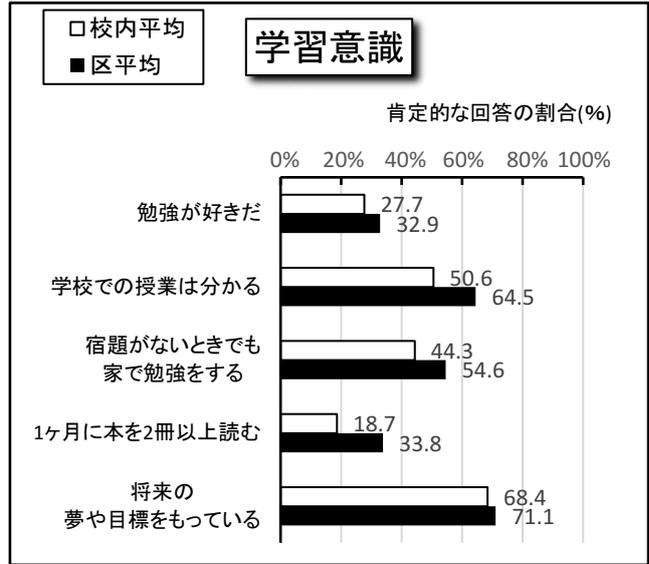
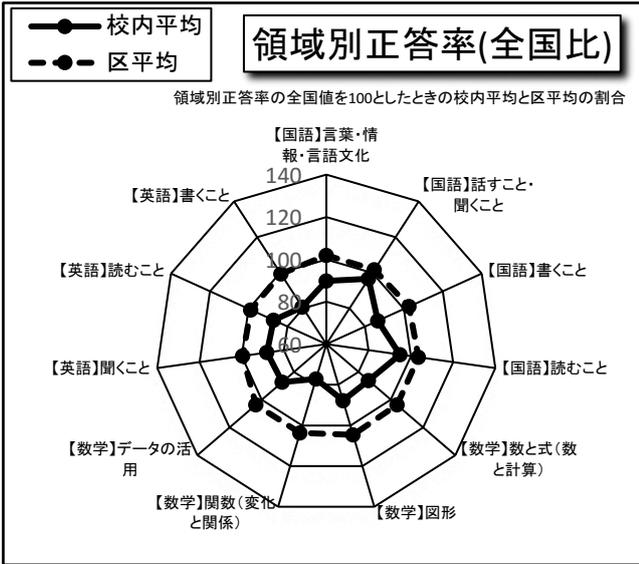
### ○家庭学習の充実

家庭学習ノートの取り組みを通して、学習状況を教員が毎日点検し、個に応じた学習方法の指導を行っている。

### ○学級委員会・学習委員会を中心とした自発的な学習意欲向上の取り組み

「初志貫徹キャンペーン」「量より質キャンペーン」などの期間を設け、点検や放送での呼びかけを行ったり、集会で上級生からアドバイスをもらったり、自発的に取り組んでいる。

# 鹿浜菜の花中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	59.7	49.1	45.5	61.6	62.3	63.0	62.8	48.1	33.6	54.4	35.7	38.6
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	57.9	51.6	43.7	62.8	72.3	66.4	67.4	46.5	34.9	44.3	36.2	29.8
平均正答率(R6)	61.4	45.7	54.3	56.0	62.2	80.0	61.5	41.0	44.3	67.3	31.0	47.2
平均正答率(R5)	69.5	46.1	52.4	70.2	64.8	68.3	71.5	38.2	50.0	67.0	33.6	45.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

## 「学習定着度調査」分析結果

【1年生】国語は、言語文化の単元以外、数学は、分数の計算、縮図や拡大図、比例と反比例、起こり得る場合の単元以外は全国・足立区の平均を下回っている。特に数学では比や活用に伸びしろがある。英語はすべての単元について、全国・足立区の平均を下回っている。

【2年生】国語、数学、英語のすべての単元で、全国・足立区の平均を下回っている。特に漢字の書きの単元、数学の方程式では伸びしろがある。英語は、身近な内容の聞き取り、日常的な場面に応じた英文記述に伸びしろがある。なお、英語の通過率を経年比較すると、1年生時(R5)の通過率から半減している。

【3年生】国語は、説明的な文章、文学的な文章の単元以外、英語は、具体的な情報の聞き取りの単元以外のすべての単元で、全国・足立区の平均を下回っている。特に国語は、漢字の読み・書きと活用、英語は、語句や英文の正確な記述、日常的な場面に応じた英文記述などにおいて伸びしろがあり数学は、すべての単元で全国・足立区平均を下回っている。特に連立方程式の単元は、伸びしろがある。

【意識調査】「勉強が好きだ」という肯定的割合や「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に2冊以上本を読む」という生徒の割合が低く、家庭での学習の定着を促進していくことが課題である。

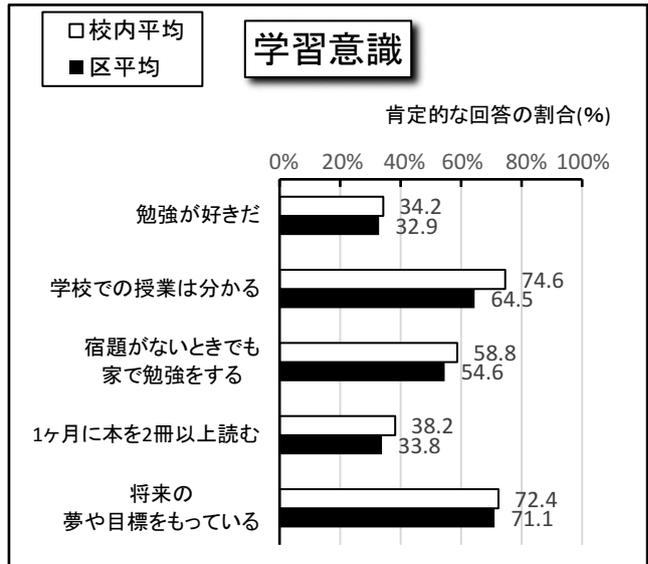
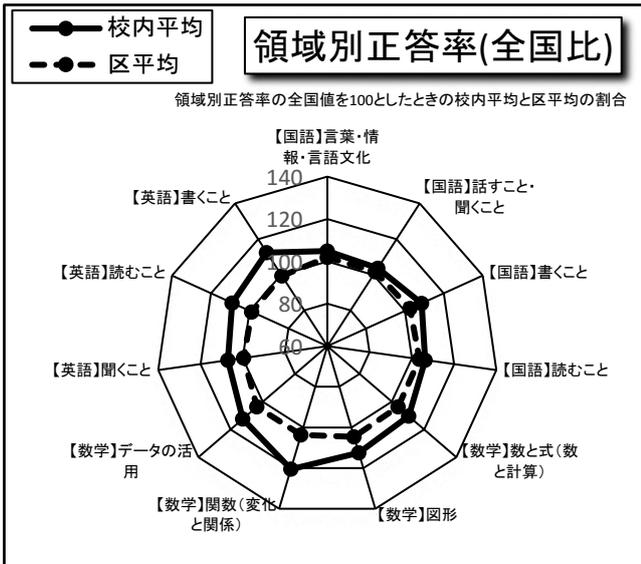
## 学校による学力向上への主な取り組み

朝学習や鹿浜菜の花タイムを取り入れ、授業時間に取り組むなど、学習の充実を図っている。内容は、朝読書やドリル、プリント学習、AIドリルを行ったり、国語漢字コンテスト、数学計算コンテスト、英語スペリングコンテストなど、漢字、単語などの記述面を強化している。また、各種検定試験を学校で実施し、学習意欲を喚起している。

夏季休業中には、サマースクールを行い、定期考査前には質問教室で補充的な授業を行い、学習の機会の拡充を図っている。「学校での授業は分かる」という割合が50%なので、授業改善により、理解度を上げていく。

英語の通過率は、1年次には6割を超えているが、2年次に大きく減少し、ほぼ横ばいのまま3年次の値となっていることから、途中段階で脱落しないように手だてを構築していく。

# 新田中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	76.9	73.5	80.6	78.8	79.3	89.4	82.4	78.8	75.6	69.6	62.6	76.6
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	79.0	76.8	75.4	82.1	89.6	82.7	88.0	74.1	74.1	68.3	67.2	69.9
平均正答率(R6)	70.6	60.1	72.7	65.3	70.1	91.0	73.1	58.5	64.6	73.4	51.1	69.1
平均正答率(R5)	78.1	62.4	69.4	77.6	77.4	77.5	79.1	57.2	69.3	77.8	51.7	64.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

全学年全教科、平均正答率・通過率ともに、区・全国平均を上回り、学力向上への取り組みの成果が表れている。「学習意識」においては「勉強は大切だ」「よい成績がとれるよう、勉強したい」の質問項目は全学年9割の生徒が肯定的に回答している一方で、「これまで学習したことを使って新しい問題を工夫して解決している」や「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している」の質問項目は、A層とD層の差が大きく、一部の生徒の学習に対する取り組み姿勢について課題が見られる。

【国語】基礎問題は全学年C層まで目標値に達しているが、応用問題ではA層とD層の差が大きく、記述問題では差が顕著である。条件式作文の設問は8・9年生ともに誤答率が高い。

【数学】全学年A層とD層の差が大きく、基本問題でも個別支援が必要な生徒への対策が必要である。7年生に関しては関数や図形の基本用語についての正しい理解が課題である。

【英語】英語の聞き取り、簡単な単語の書き取りについては正答率が高いが、書き取りについて「ローマ字と異なる文字の使い方をする単語」について少々の課題がみられる。

## 学校による学力向上への主な取り組み

【小中一貫校の特性を活かした取り組み】5～9年生が一齐に取り組む定期考査と教科コンテストで、教科指導の一貫性を図る。小学時の学習で定着しきれなかった内容を中学で繰り返し指導するなど、系統的・継続的な指導を行っている。

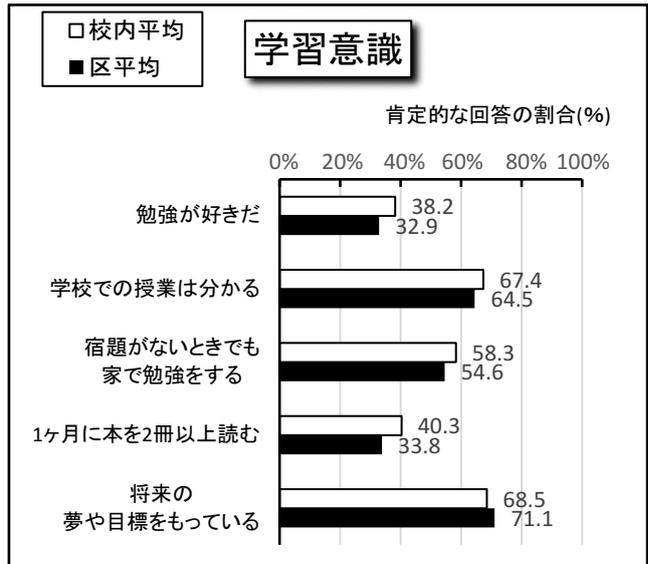
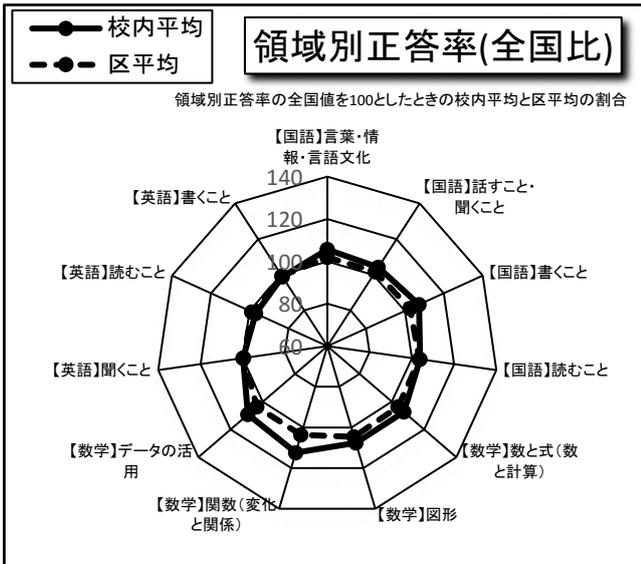
【放課後補充教室】毎週火・木の放課後に学力C層・D層にあたる生徒を中心に指導を行う。学習コンテストの週は、全員参加で演習に取り組んでいる。

【サマースクール】夏までの学習のつまづきを解消するため、少人数による補充学習を実施する。9年生は基礎・発展コースに分け都立入試対策も実施する。AIドリルも活用する。

【家庭学習】家庭学習用ノートを活用した家庭学習を推進している。毎日の家庭学習を通して、自分の苦手な部分を克服したり、得意な部分を伸ばす。生徒自らがそれぞれの課題を自分で発見し、その課題を自分で解決することで自主性や主体性を養う。

【ICT活用能力の育成】ICTを活用することで情報を可視化し学習意欲を喚起させる。校外学習などの事後学習を異学年と交流し、社会化スキルや学習に対する関心を高める。

# 千寿青葉中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	75.5	69.5	63.3	73.9	78.3	84.8	84.5	76.7	50.4	67.5	51.3	52.1
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	74.1	72.9	59.7	80.2	86.3	78.6	82.4	58.0	43.7	55.7	73.2	53.6
平均正答率(R6)	70.2	58.6	64.7	63.6	72.1	90.1	73.4	57.8	54.0	74.4	42.2	57.6
平均正答率(R5)	76.7	58.4	61.7	77.7	74.6	73.6	77.9	46.4	56.7	73.8	49.2	57.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

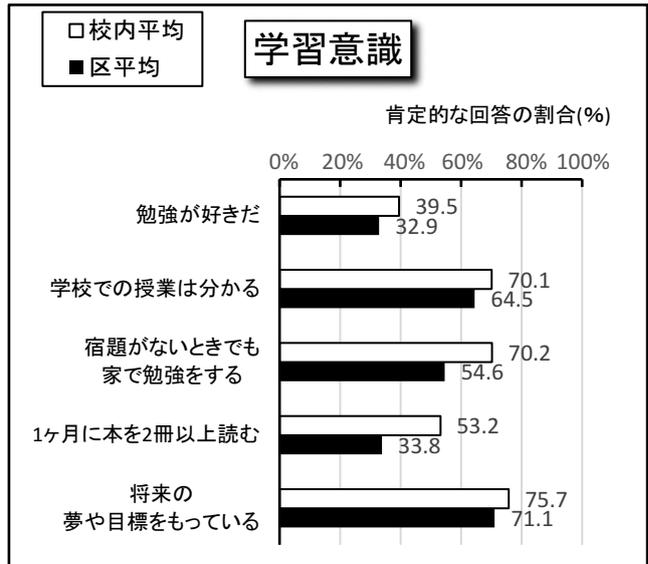
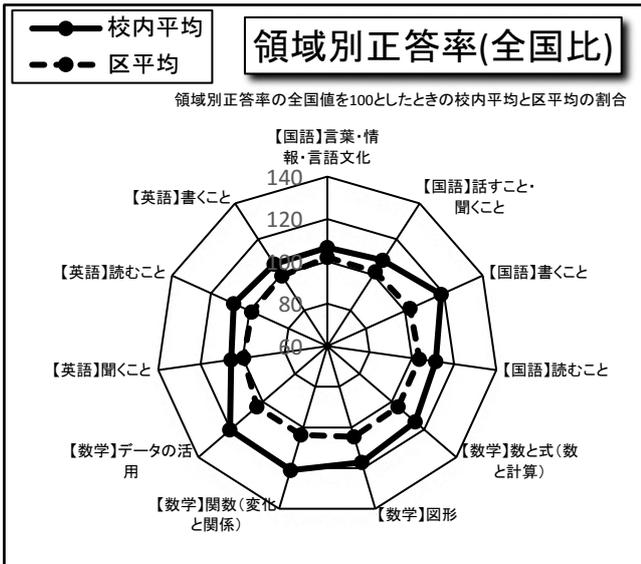
## 「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の平均正答率は昨年度と比較して、国語で6.5ポイント下がり、数学で0.2ポイント、英語で3.0ポイント上がった。全国値と比較すると、国語、数学、英語全てにおいて上回った。
- ・学校全体の通過率は、一番高かったのが国語で75.5%、次いで数学が69.5%、英語が63.3%であった。
- ・英語は特に「読むこと」「聞くこと」を高める必要があると思われる。
- ・学習意識に関しては、「学校での授業は分かる」が67.4%なのに対して、「勉強が好きだ」という生徒は38.2%となっている。学習に対する興味・関心を高めさせる工夫や授業改善をして学ぶことの楽しさを伝えていきたい。また、「将来の夢や目標をもっている」が68.5%と区平均を下回った。3年間を見通した計画的な進路学習やゲストティーチャーを招いたキャリア教育を強化したい。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- ・数学ではティームティーチング、英語は習熟度を考慮した少人数授業を展開し、個に応じた指導を充実させる。
- ・A S T (青葉・スペシャル・タイム) の実施  
今年度より、A S Tの時間を25分間に延長し取り組んでいる。A S Tは放課後に全員が自学自習に取り組む。ただし、学習が定着しない生徒には補充的な学習の時間とすることもあ
- ・夏季休業日中のサマースクール(補充教室)では数学と英語に特化した授業を行う。数学科と英語科が内容を検討して授業を行い、各学年教員全員が支援を行う。
- ・年間3回の学習コンクールを実施し、生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。
- ・A S Tを中心に、A Iドリルを活用した学習を行う。
- ・定期考査2週間前を家庭学習定着期間として、家庭での学習状況の確認をする。

# 千寿桜堤中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	80.1	78.6	76.2	84.4	90.0	91.9	87.0	76.3	60.4	69.5	69.0	74.0
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	82.0	78.3	75.2	84.7	91.2	81.8	86.8	68.9	61.8	74.7	76.0	82.7
平均正答率(R6)	73.0	63.2	70.5	69.8	79.8	92.5	74.0	55.9	58.2	75.6	51.1	67.3
平均正答率(R5)	79.6	60.9	70.4	79.8	77.1	76.3	80.7	50.9	63.0	78.1	54.7	74.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

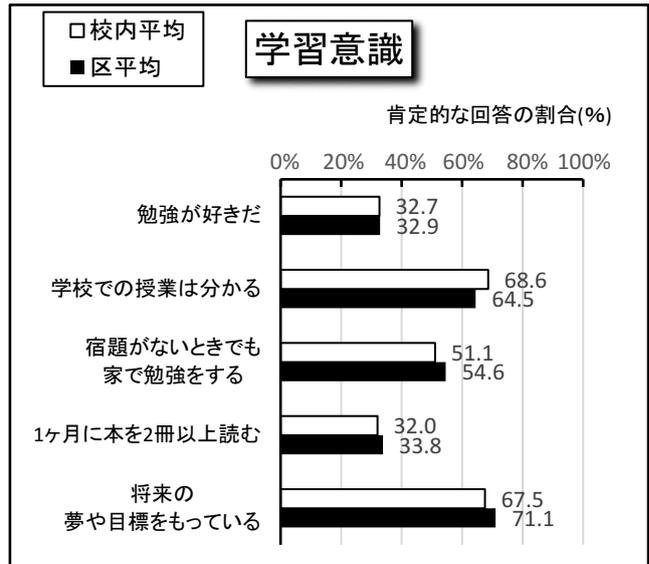
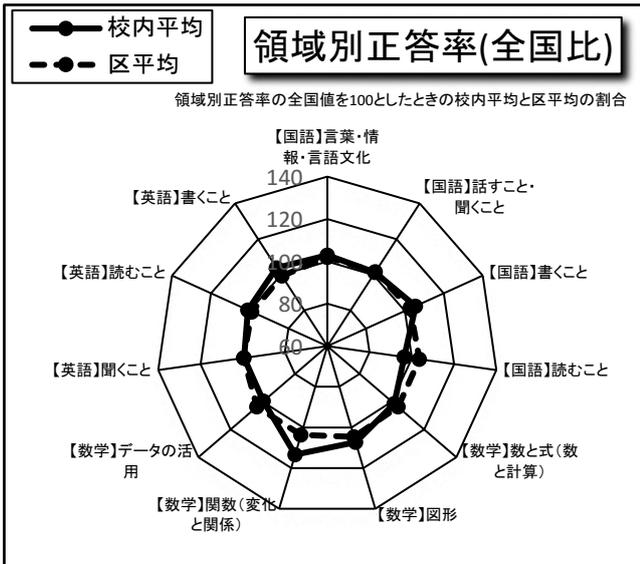
## 「学習定着度調査」分析結果

- どの学年もすべての教科で正答率・通過率ともに区平均・全国平均を上回っており、学習の定着に向けた取り組みの成果が表れている。学習意識において、概ね区平均を上回っており成果が表れている。ただ、昨年度と比べて「学校での授業は分かる」が-3.5ポイントと下がっているため、課題がみられる。
- 国語は、「書くこと」の単元においては昨年度に比べると向上が見られた。「知識・技能」「応用」に定着の差が見られる。語彙・文法・漢字・情報などの知識・技能を定着させ、基礎力を土台として応用する力を付けることが課題である。
- 数学は、「データの活用」「関数」においては昨年度に比べると向上が見られた。「思考・判断・表現」の単元においては、一部未定着の生徒がいる。特に「活用」においては定着できていない生徒が多く、習熟度に応じて指導することが課題である。
- 英語は、「読むこと」「書くこと」の単元において、一部未定着の生徒がいる。個々の生徒に応じて、定着を図っていくことが課題である。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 校内で互いの授業を見合って授業改善を行ったり、目標達成キャンペーンを行ったりすることで「学校での授業は分かる」「勉強が好きだ」という生徒を増やしていく。
- 国語の取り組みとして、語彙・文法・漢字などの学習場面で、AIドリルを活用し基礎学力の定着を図るとともに、適宜小テストを実施し、知識の定着を図る。また、基礎力の定着のみならず、習熟度に応じて発展的な課題に取り組みさせることで「応用力」を付けさせる。
- 数学の取り組みとして、「思考・判断・表現」の単元については、習熟度別少人数数学級指導やAIドリルを活用して、個々に定着を図る。特に未定着の生徒が多い「活用」については、授業の中で習熟度に応じてグループで取り組む機会を作り定着を図る。
- 英語の取り組みとして、スペリングコンテスト・単元テストなどの小テストを行うことで、「知識・技能」の定着を図る。また、ALT、TGG、留学生交流会などの体験的な授業を通して、表現力や思考力を身に付けさせるとともに、英語に対する興味・関心をもたせる。また、個々の生徒にはAIドリルを活用しながら、英語の基礎・基本の定着を図る。

# 竹の塚中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	68.9	68.9	65.0	67.6	64.9	64.9	77.1	68.6	62.9	61.3	74.2	67.7
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	63.8	58.5	59.3	73.0	71.1	68.4	71.0	71.0	61.3	52.1	40.8	51.0
平均正答率(R6)	67.3	56.0	68.1	57.9	63.7	79.0	73.8	53.6	61.6	71.2	48.9	67.2
平均正答率(R5)	72.9	53.3	62.5	75.6	73.1	72.6	72.8	55.5	65.3	71.0	35.4	56.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

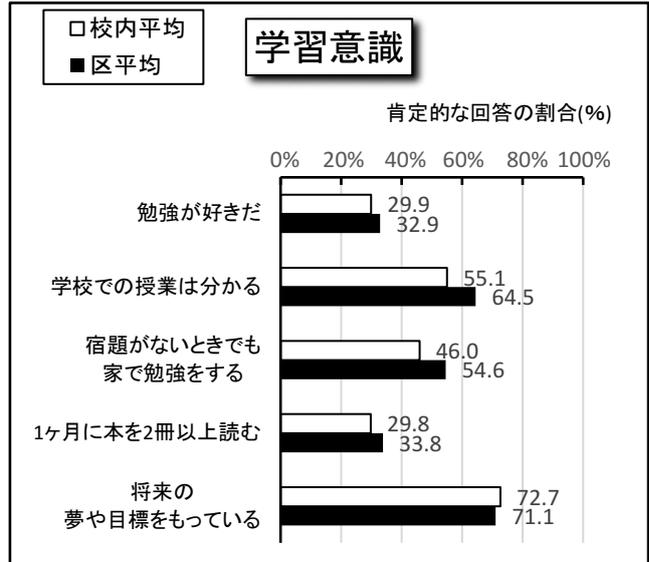
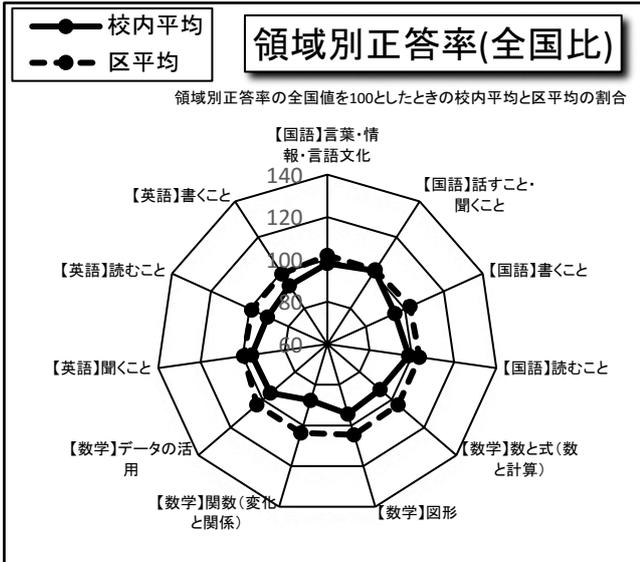
## 「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、令和5年度に比べ国語は5.1ポイント、数学は10.4ポイント、英語は5.7ポイントと全ての教科について上回った。意識調査の「学校の授業は分かる」と考えている生徒が区平均に比べ、4.1ポイント上回ることから数値が上昇傾向にあるものと思われる。
- 国語:全学年平均正答率は、目標値を上回ったが、区の平均正答率からは1年生が5.7ポイント下回った。読書量を増やし、漢字の読み書きの基礎学力の向上を図る。
- 数学:1・3年生では平均正答率は、目標値を8ポイント以上、2年生は11.8ポイントと大きく上回った。少人数での習熟度別授業やA Iドリルの活用などが活かされたと考えられる。
- 英語:2・3年生では平均正答率は、目標値を10ポイント以上、上回ることができたが、1年生は1.8ポイント下回った。1年生では技能面の「聞くこと」に課題があるため、リスニングテストや補充教室、A Iドリルを活用する。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習:【対象】全学年【教科】定期考査前の自習、国語、数学、英語【時期】月～金の朝10分間【内容】各自用意した読書を行う。定期考査前やコンテスト前は教科の学習を実施。
- 放課後補充教室:【対象】全学年および指名された生徒【教科】国、数、英【時期】月～金放課後20分【指導体制】全教員【内容】A Iドリルを活用し、区学力調査や単元テストの結果を受け、各自の苦手分野の克服および基礎学力の定着を図る。
- 学習コンテスト:【対象】全学年【教科・時期】国語(6月)数学(9月)英語(12月)【指導体制】教科を中心に全教員【内容】基礎学力の定着をめざし、国語は漢字、数学は計算、英語は単語と基本文を出題する。満点賞および3つの満点者を三冠賞として表彰する。
- サマースクール:【対象】希望生徒【教科】国語、数学、英語(3年生のみ理科、社会)【時期】夏季休業中の7月【指導体制】全教員【内容】基礎クラスと標準クラスの2クラス展開とする。夏季休業日までの学習内容の復習および演習を行い、学力の向上を図る。
- 家庭学習強化月間:【対象】全学年【教科】国・数・英・理・社【時期】定期考査を実施する月、年4回【指導体制】全教員【内容】家庭学習ノートやA Iドリルカードを提出し、各自の目標、取り組んだ時間、自己評価を記入させ、主体的に学びに向かう力を養う。

# 西新井中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	65.3	54.0	55.0	76.5	77.1	81.3	72.7	52.8	44.3	47.3	34.6	42.4
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	64.7	56.4	55.0	67.0	72.9	71.4	72.0	47.1	38.6	52.6	46.1	53.3
平均正答率(R6)	66.1	48.6	58.5	63.2	69.7	87.9	67.5	43.2	50.8	67.3	33.8	50.0
平均正答率(R5)	72.3	50.5	59.3	72.2	67.3	71.3	74.5	41.3	53.5	69.7	37.3	56.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

【英語】平均正答率は、足立区の値を1年生で0.2ポイント上回り、2年生で4.3ポイント、3年生で9.3ポイント下回った。領域別では、英文の主旨を読み取る力や、読解力がついていないので、英文を読むトレーニングを行う必要がある。

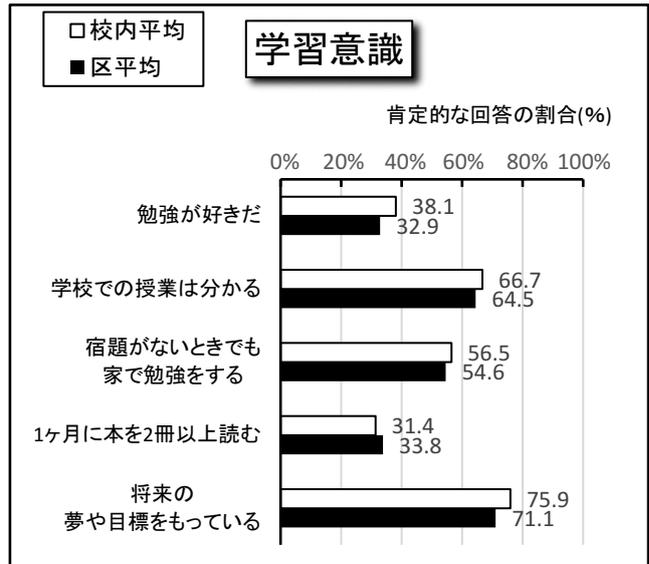
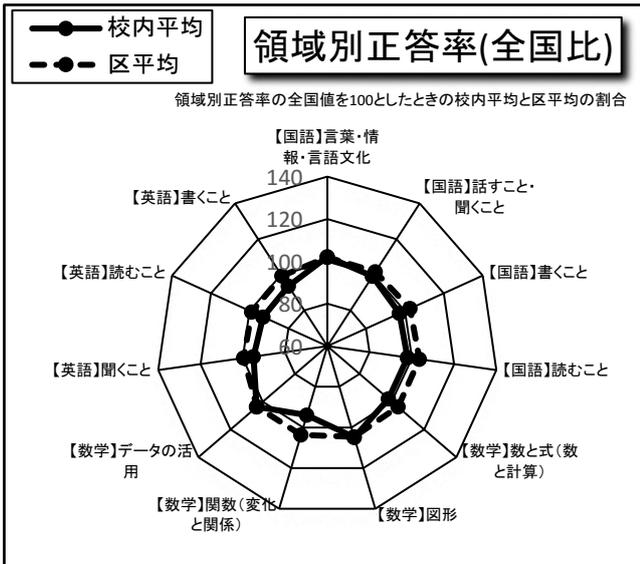
【数学】平均正答率は、足立区の値を1年生で0.2ポイント、2年生で9.0ポイント、3年生で8.8ポイント下回った。領域別では、特に計算分野での領域において課題がある。関数の領域は、特に計算分野での既習事項を土台としているため、基礎的・基本的な計算について重点的、継続的な取り組みが必要であると考えられる。

【国語】平均正答率は、足立区の値を1年生で0.4ポイント、2年生で3.1ポイント、3年生で3.9ポイント下回った。領域別では、特に書くことの領域において課題がある。自らの意見や考えを文章にするためには、日頃の授業から、考えを文章に表す活動や、まとまった文章を書く活動に取り組む必要があると考えられる。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学習や放課後の補習授業など、西新井中学校の学力向上の取り組みをしっかりと実施していく。その際個別最適な課題に取り組むために、プリント学習やAIドリルを有効に活用できるようにしていく。サマースクールにおいては、成績が下位の生徒を対象に学習に取り組ませるとともに、1年生の数学においては、学年の枠を超えて、全教員が数学の基礎の部分の指導にあたり、いわゆる中1ギャップの発生を少しでも減少できるように努める。また、夏休みを利用して3教科を中心に、区の学力調査を分析する教科会議を行い、学力向上のための今後の取り組みについても検討していく。9月より、そこで話し合われた修正部分などを取り入れた朝学習の取り組みや補習授業などを実施し、年度内に定着度の低い箇所の補習を行い定着を図る。
- ・2、3年の数学に関しては、足立区の平均と比較して8ポイント以上のマイナスとなっているため、根本的に取り組みを見直し、対策をとっていかねばならない。1年生のときから基礎・基本の定着を確認しつつ進めていき、学年が上がった際に既習事項の抜け落ちがないようにする。

# 花畑中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	65.5	60.6	55.9	65.3	81.1	81.1	71.7	56.5	38.0	59.1	47.7	53.4
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	65.3	65.3	62.0	65.6	69.8	70.8	77.3	68.2	61.4	53.3	57.8	53.3
平均正答率(R6)	67.0	51.7	58.8	60.9	71.4	88.6	68.0	46.6	46.4	71.2	39.0	55.9
平均正答率(R5)	73.5	53.1	61.7	71.6	66.0	70.4	76.2	49.7	60.6	73.0	41.6	57.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

(同一集団の経年比較)

【国語】2年生は、平均正答率が-3.6ポイントと下がり、通過率は+6.1ポイントと上がった。3年生は、平均正答率が-5.0ポイント、通過率も-18.2ポイントと下がった。学校全体では、「言葉・情報・言語文化」について、概ね良い数値であるが、「読むこと」「書くこと」の数値が低く、教科の授業だけでなく、教育活動全体で改善すべき課題である。

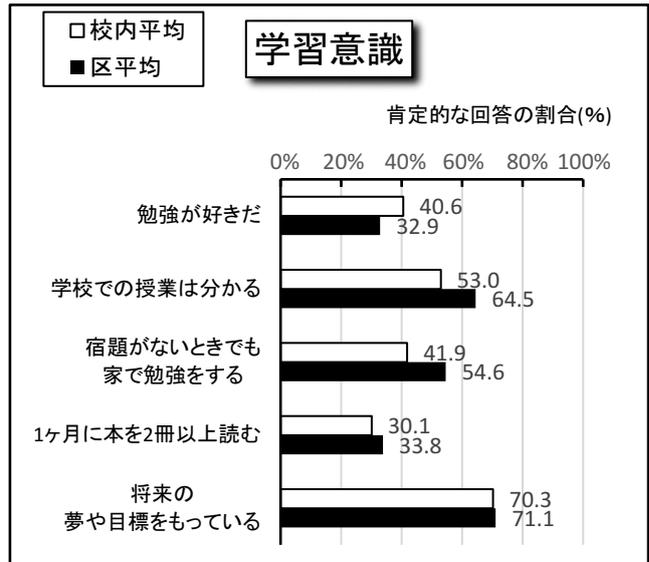
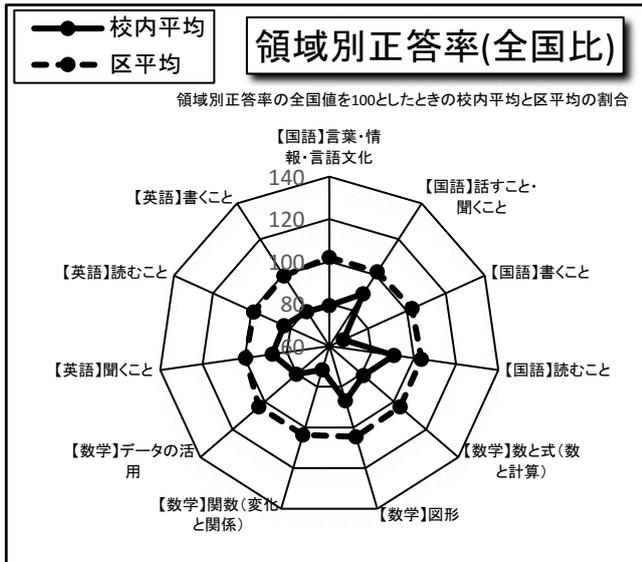
【数学】2年生は、平均正答率が-19.4ポイント、通過率が-13.3ポイントと大幅に下がった。3年生も、平均正答率が-10.7ポイント、通過率も-20.5ポイントと大幅に下がった。「数と式」「関数」の数値が特に低く、基礎・基本の定着など、早急に対応すべき課題となる。

【英語】2年生は、平均正答率が-24.0ポイント、通過率が-32.8ポイントと大幅に下がった。3年生は、平均正答率-4.7ポイント、通過率が-8ポイントと下がった。全ての領域に関して、低い値となっているため、学校全体で早急に対応していかなければならない。特に2年生の苦手意識の改善は必須である。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 読書活動の充実や図書館活用の活性化を図るとともに、国語の授業だけでなく、全ての教科において「読む(読み取る)力、まとめる力、伝える力」の育成を目指した授業の改善に取り組む。
- 数学や英語では、基礎・基本の定着に重きを置き、基礎的な問題などに取り組ませるとともに、思考力や表現力を高める話し合いなどの活動もより充実させる。
- 学校での学習指導とともに、家庭での学習の仕方指導や補充学習などによる学習支援により、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図る。
- 基礎学力の定着に課題のある生徒に対して、放課後20分の補習学習(がんばるクラブ)を実施する。また、AIドリルを効果的に活用し、5教科の基礎学力の定着を図る。
- 定期考査1週間前に、全校生徒に対して放課後学習を実施し、学習時間の確保とともに、学習習慣の確立を図る。

# 花畑北中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	44.2	45.7	40.0	45.9	51.4	62.2	58.1	53.1	25.0	30.6	33.3	30.6
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	52.5	44.6	48.5	58.3	66.7	72.2	66.7	36.1	33.3	27.6	27.6	37.9
平均正答率(R6)	55.2	43.5	52.5	49.0	58.2	80.7	59.1	39.9	42.2	58.1	30.2	43.4
平均正答率(R5)	65.5	43.6	53.4	67.9	60.9	70.5	67.1	34.9	48.7	60.6	30.8	45.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

【国語】領域別正答率では、「書くこと」「言葉・情報・言語文化」について特に課題が見られる。授業や補習で「書くこと」の機会を増やすことで「書く力」を身につけさせる。「読むこと」は、読み取りの機会を増やすことで効果が表れた。

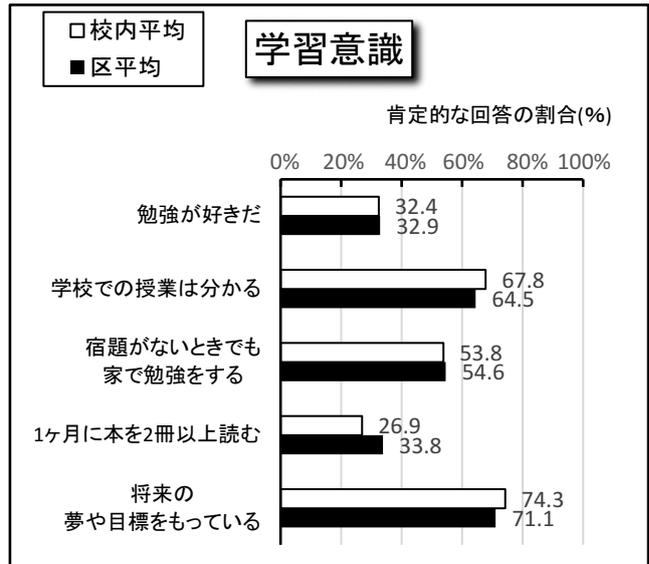
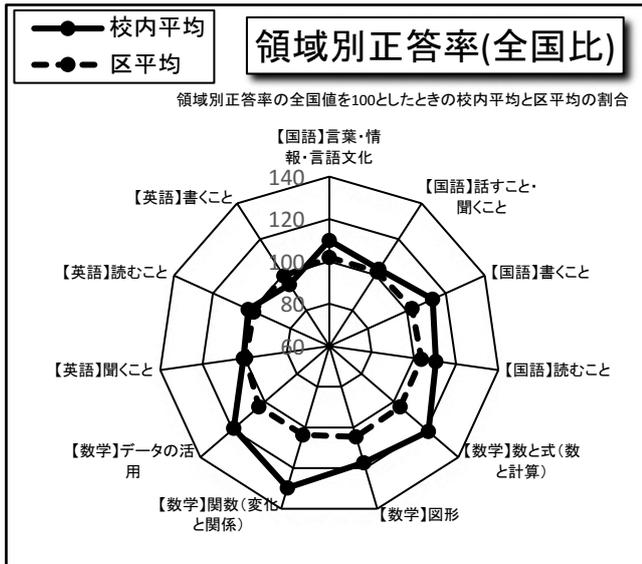
【数学】領域別正答率では「関数(変化と関係)」の正答率が、区平均を大きく下回った。式、グラフ・座標などのいろいろな要素があり、文字が増えることによって問題の意図を読み取ることが難しい状況にある。数量的意味と図形的意味の紐づけをしていく必要がある。

【英語】いずれの領域においても区の平均を下回っている。特に「書くこと」において課題が見られる。生徒は英語で会話をしたり、質問をすることには意欲的に取り組んでいるが、語彙力や文法力に課題があり、英作文の力を強化していく必要がある。今後は、単語テストの実施やワークシートの工夫を繰り返し行っていく。また、自宅で学習する習慣が十分でないため、定期的にワークブックやA Iドリルを宿題として出し、基礎・基本の定着を図っていく。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- ・授業に取り組む態度や授業中のきまりを確認し、落ち着いた授業を実施する。
- ・授業のねらいを明確にし、授業形態や発問の工夫をする。言語活動や話し合い活動を活発に行い、生徒の主体性を伸ばす。
- ・スライドやGeoGebra、GCなどの数学ソフトを効果的・効率的に活用し、抽象的な問題でも理解しやすい授業を構成する。
- ・A Iドリルを活用した家庭学習や補充教室を行い、定期考査前には質問教室を開く。
- ・夏休み中にサマースクールを全学年で実施し、基礎・基本の徹底を図る。
- ・STEP UP検定を年2回行い、漢字・英単語を覚える。粘り強く学習に取り組む態度を育成する。
- ・全教科で図書館を活用した授業を実践することで、活字や文章への苦手意識を減らす。
- ・定期考査の前に生徒に目標を立て、実施後には反省を行える冊子を作成し活用する。
- ・年1～3回の到達度テストを全学年で実施する。

# 花保中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	80.4	81.4	65.2	83.9	86.0	83.9	78.3	87.8	55.4	78.7	71.3	55.3
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	75.4	77.3	68.8	86.4	78.4	80.7	81.4	79.4	66.0	53.5	73.2	57.7
平均正答率(R6)	72.6	64.6	64.8	67.6	76.0	89.5	72.3	63.3	54.8	77.8	53.5	58.3
平均正答率(R5)	77.4	63.6	66.4	79.5	73.6	76.7	78.9	60.7	65.0	72.9	54.2	60.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

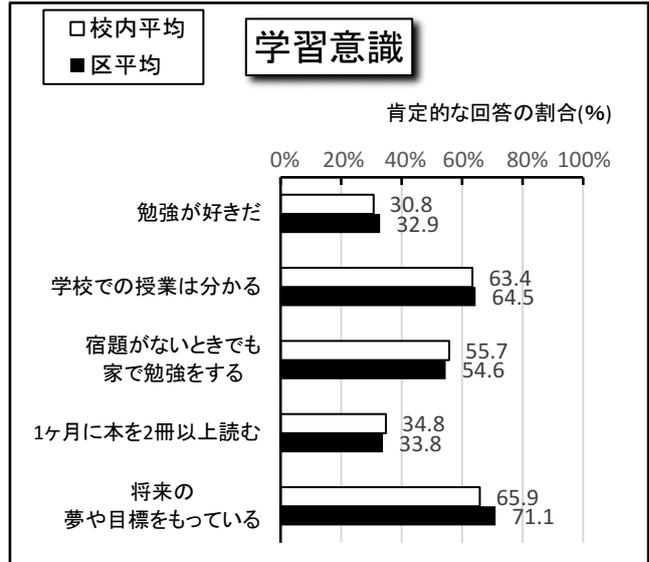
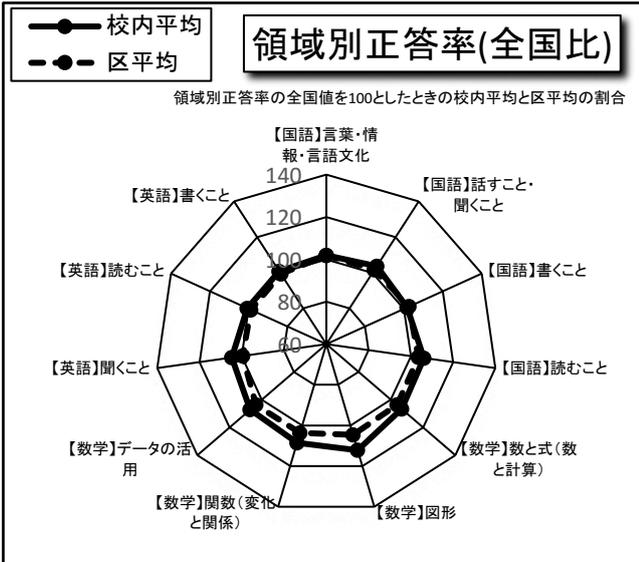
## 「学習定着度調査」分析結果

- ・1年生の通過率を昨年度1年生と比べると国語は-2.5ポイント、数学は+7.6ポイント、英語は+3.2ポイントである。
- ・2年生の通過率を1年生のときと経年比較すると国語-8.1ポイント、数学+9.4ポイント、英語-25.3ポイントである。英語の減少幅が大きいのが、区平均53.4%と比べると、本校は2.0ポイント上回っている。また国語も区平均77.7%と比べると0.6ポイント上回っている。
- ・3年生の通過率を2年生のときと経年比較すると国語-2.7ポイント、数学-8.1ポイント、英語-10.7ポイントである。英語の減少幅がやや大きいのが、区平均と比べると-3.7ポイント、全国平均と比べると+0.7ポイントであり、減少幅そのままの学力低下はないと思われる。
- ・意識調査の「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答値が区平均を3.2ポイント上回り、昨年度から区平均を上回っている。(一昨年度は区平均より、-0.7ポイント)

## 学校による学力向上への主な取り組み

- ・毎日の朝学習の実施。国数英の3教科で実施し(1教科2週間が1クール)、終了後は「朝学習まとめテスト」を行う。全員合格を目指し、順次追試を行う。また、読解力向上をめざし、NIE(教育に新聞を)を年2回2週ずつ実施し、「読後まとめテスト」を行っている。
- ・国数英3教科での放課後補充教室の実施。朝学習まとめテストの不合格者を中心に基礎的事項を補習している。また、定期考査前には定期考査に向けた補習教室や質問教室を行う。
- ・聞く力及び作文力の向上。全校朝礼での校長講話についての感想や質問などをタブレット端末上にまとめ、校長に送信、提出する。提出された感想は校長が全て目を通す。
- ・ICT機器の活用。朝学習で年間10週以上AIドリルを使用する。また、各授業でもAIドリルを通常使用し、学力向上を目指すと共に、生徒の主体的学習意欲を促している。また、英語科ではデジタル教科書による個人の音読練習を実施し、発音や読解力の向上と家庭における自主学習の手立てとの両立を図っている。
- ・自主学習ノートの毎日の提出。家庭学習の習慣化を図り、長期休業中も課している。

# 東綾瀬中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	72.3	69.7	70.4	79.2	81.5	87.6	78.5	72.8	55.7	56.4	51.4	65.0
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	72.6	65.3	68.8	73.9	81.2	82.4	79.4	54.9	60.6	64.9	57.6	61.8
平均正答率(R6)	69.0	59.2	67.8	65.7	73.3	89.8	71.7	56.5	57.0	70.2	42.9	62.3
平均正答率(R5)	75.2	55.5	66.0	74.7	71.0	76.5	76.1	46.3	62.1	75.0	45.7	62.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

【国語】R6の通過率は、R5と比べ1年生は上回っているが、2・3年生は下回っている。まずは、どの学年も漢字や言葉の基礎的な事項の反復学習を行う中で、学んだことを生かして学習に取り組める意識を育てたい。また、自分の考えを書いたり、話したりして伝える力も付けさせたい。そのためにも基礎的な学習事項をしっかりと習得しておくことが必要であり、A Iドリルの文法問題などに積極的に取り組めるようにしていく。

【数学】R6の通過率は、R5と比べ1・2年生は上回っているが、3年生は下回っている。また、学習意識調査においても1・2年生に比べて3年生は肯定的回答が全体的に低い傾向にある。基礎・基本の問題でのつまずきと数学を学ぶ意欲は大きく関わっているため、A Iドリルを活用し基礎問題や計算を継続的に取り組ませることで、基礎学力を確実に定着させていく。

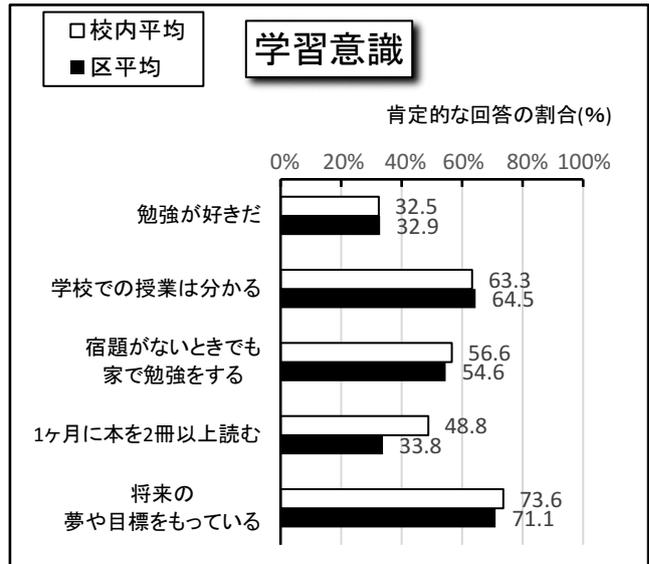
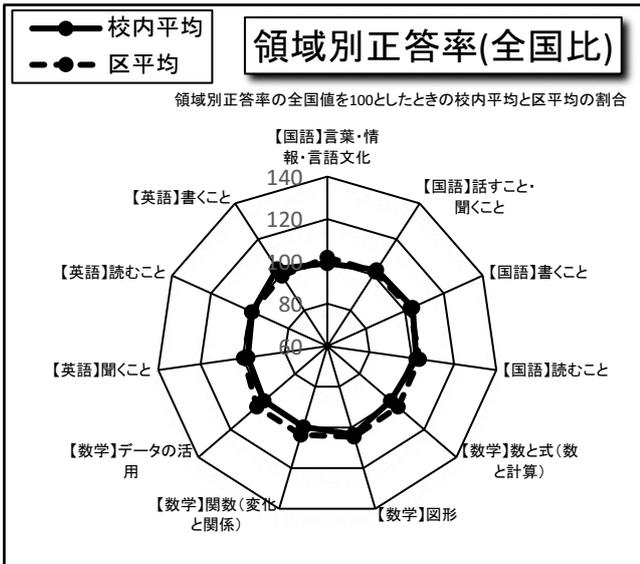
【英語】R6の通過率は、R5と比べ1・3年生は上回っているが、2年生は下回っている。領域別正答率では、「聞くこと」「読むこと」が区平均を上回っており、英語科教員の共通理解のもと、英語でのコミュニケーションを意識した授業を展開した結果だと考えられる。一方、「書くこと」がやや低いことから、今後継続的に書く指導にも力を入れていく。

【意識調査】「勉強が好きだ」と「将来の夢や目標をもっている」が区平均を下回っている。外部の専門家や文化・芸能に秀でた方、プロスポーツ選手などを招聘し、将来を考えさせる指導を行いながら、夢デザインシートをより積極的に活用し、キャリア教育を充実させる。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 1 P B Sにより心の安心・安全を確保し、学力向上の環境づくりをする。
- 2 生徒に「なぜ」を考えさせる問いを意識した授業の実施
- 3 A Iドリルタイム(週4日×15分)と授業内でのA Iドリルの活用
- 4 校内における相互授業観察週間の実施(年2回)
- 5 小中連携による授業研究と統一した授業実践
- 6 管理職・教科指導専門員による授業観察
- 7 夏季休業中の補充教室の実施(1年生は小学校教員と連携)

# 東島根中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	70.4	64.6	68.4	76.1	68.5	81.5	79.3	63.4	57.4	54.2	61.4	66.3
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	70.6	65.8	69.4	71.0	75.2	77.2	78.8	71.8	68.2	62.8	50.5	62.1
平均正答率(R6)	67.8	53.9	65.1	63.0	65.9	84.9	72.2	48.8	55.3	68.2	45.0	62.2
平均正答率(R5)	75.9	56.3	66.0	74.7	71.4	73.5	77.2	52.1	64.8	75.9	42.7	62.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

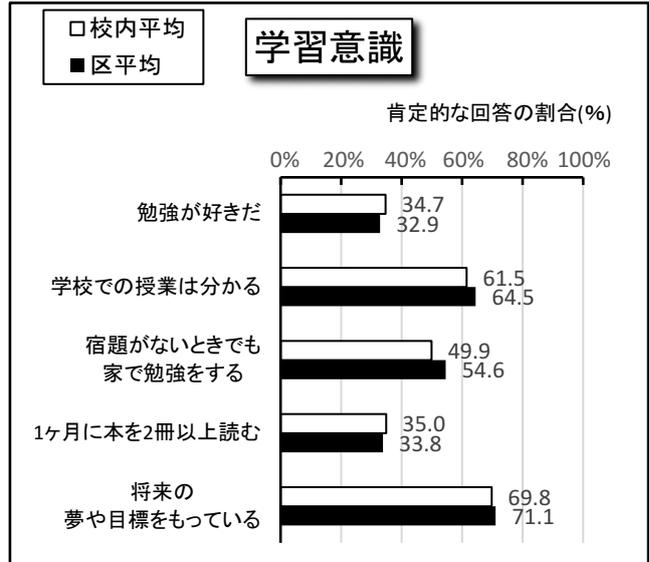
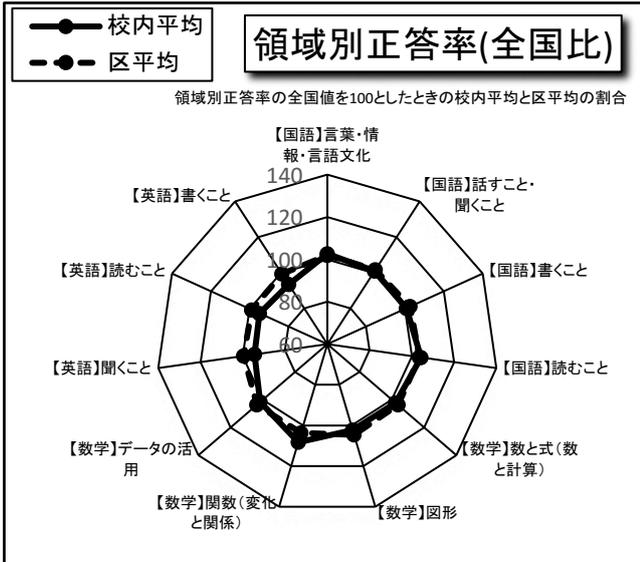
## 「学習定着度調査」分析結果

- ◆令和6年度の通過率は令和5年度の結果と比べ、学校全体では国語で0.2ポイント、数学で1.2ポイント、英語で1.0ポイント下回った。また、平均正答率は、国語で8.1ポイント、数学では2.4ポイント、英語では0.9ポイント下回った。
- ◆1年生の通過率については、令和6年度は数学で令和5年度の結果を下回ったが、国語と英語は上回った。平均正答率は、英語で11.4ポイント令和5年度を上回り、国語で11.7ポイント、数学で5.5ポイント下回った。
- ◆2年生の通過率については、令和6年度は数学、英語で令和5年度を下回ったが、国語では上回った。平均正答率は、国語で5.0ポイント、数学で3.3ポイント、英語で9.5ポイント下回った。
- ◆3年生の通過率については、令和6年度は国語は令和5年度を下回ったが、数学と英語は上回った。平均正答率は、数学で2.3ポイント、英語で0.1ポイント上回り、国語で7.7ポイント下回った。
- ◆今回の分析結果から、1年生と2年生の目標値に対する平均正答率や通過率は下降傾向にあり、3年生の目標値に対する平均正答率や通過率は上昇傾向にある。1年生の英語は、目標値に対する平均正答率が下降しているものの通過率が上昇していることから、得点分布に大きな乖離が生じていると考えられる。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- ◆家庭学習の取り組みとして、授業の振り返りを行うために、毎日2ページずつ家庭学習ノートを活用し、できなかった内容の克服や重要ポイントの復習を図る。
- ◆朝補習として、木曜日以外の毎朝、20分間の学力補充教室を全学年で実施する。対象生徒を15人前後に絞り、プリント学習を中心とした授業の復習や演習を行う。
- ◆長期休業中の課題として、A Iドリルを有効活用する。また、長期休業中の学力補充教室への参加を呼びかけ、国語、数学、英語の3教科を中心に、プリントによる課題やA Iドリルを活用した補習を実施して、基礎学力の向上を図る。

# 測江中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	71.2	69.0	59.3	73.0	79.9	74.6	83.7	72.9	44.6	54.6	47.5	50.8
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	63.1	59.4	59.9	68.8	71.1	72.5	74.2	56.7	55.0	50.0	51.2	52.5
平均正答率(R6)	67.7	57.5	63.1	62.9	70.4	85.1	71.7	51.2	50.3	71.0	42.1	55.0
平均正答率(R5)	73.1	51.6	60.9	73.0	67.0	71.6	75.9	44.6	58.1	71.1	42.0	57.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

## 「学習定着度調査」分析結果

学校全体における通過率を昨年度と比較すると、国語+8.1、数学は+9.6、英語-0.6ポイントとなり、国語と数学に関しては昨年度を上回る結果となった。本校では、「B・C層の学力向上およびD層の学習習慣の定着」をめざして補充教室を実施しており、通過率70~80%の教科が増えたことは成果として評価できる。教科別には以下のように分析する。

【国語】平均正答率を区平均と比較すると、教科総合で1年生-0.7、2年生+1.1、3年生-0.2ポイントという結果になった。全体として基礎学力の定着に課題があり、C-D層の差が大きい。基礎・基本の振り返りを重視した個別学習の充実を図る必要がある。また、書くことへの苦手意識を減らすため、応用問題の取り組み方を指導する。

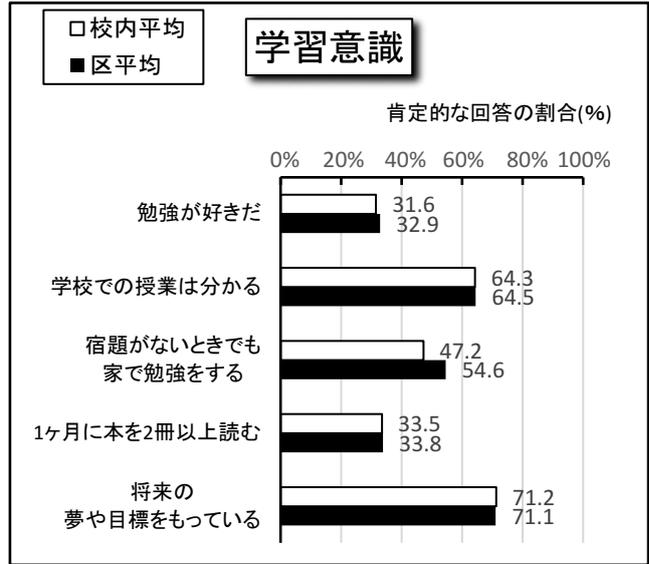
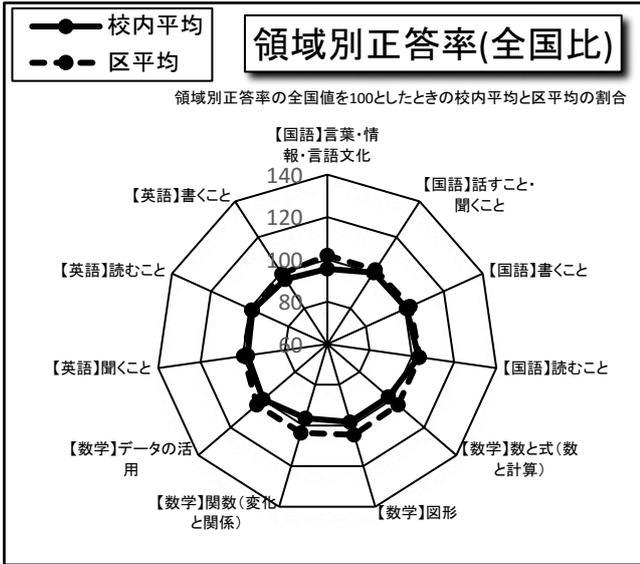
【数学】平均正答率を区平均と比較すると、教科総合で1年生+0.5、2年生-1.0、3年生-0.5ポイントという結果になった。全学年ともにA-D層の差が大きく、とくに1・2年生はC-D層の差が顕著であるため、個別指導を計画的に取り入れながら全体の底上げを図る必要がある。また、図形領域や応用問題、記述式の問題等に課題がある。

【英語】平均正答率を区平均と比較すると、教科総合で1年生-2.6、2年生-4.8、3年生-4.3ポイントという結果になった。2・3年生は基礎学力がある程度定着しているが、思考力や判断力をより高めるための応用的な学習法を取り入れていく必要がある。また、語彙力や読解力を向上させるため、授業中の帯活動をより充実させる。

## 学校による学力向上への主な取り組み

年間を通して、A Iドリルを活用した放課後補充教室を5教科で実施する。定期考査前の補充教室を5教科で実施し、自習室の開放も行う。学習支援ボランティア(大学生)による『しらすぎ学習教室』を開設し、小テストやA Iドリルの正答率が低迷している生徒の学習支援を行う。夏季休業中にサマースクールを7日間実施する。D層の学習習慣の定着をめざした指名制講座を3教科で開設し、A・B・C層の学力向上をめざした希望制講座を5教科で開設する。読解力の向上をめざし、毎朝10分間、全校生徒に朝読書に取り組ませる。校内で年2回、指導案を全教員に配布し、公開授業を行う。年3回生徒に授業診断アンケートを実施する。

# 谷中中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	67.7	56.7	61.4	77.9	71.4	80.0	71.3	54.7	40.7	53.3	43.8	65.0
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	64.5	67.7	67.0	72.3	78.7	79.9	69.3	62.1	61.4	52.3	61.7	59.1
平均正答率(R6)	66.2	52.1	62.8	63.0	67.3	87.2	67.3	46.8	48.2	68.5	40.8	62.8
平均正答率(R5)	73.7	55.4	64.8	75.2	70.4	74.3	74.0	47.7	64.0	72.0	45.9	59.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

### 【学年別の傾向】

○1年生の通過率は、全教科とも70%以上で、特に英語は80%であった。また、同一集団における経年変化で見るとR5年度と比べて、2年生の通過率は、特に数学が24.0ポイント、英語が39.2ポイント、それぞれ低下している。3年生の通過率は、特に国語が16.0ポイント、数学が18.3ポイント、それぞれ低下している。

### 【領域と分析】

○2年生の英語は「書くこと」について課題がある。補充教室等でA Iドリルや小テスト等を活用し、基礎的・基本的な学力の定着を図る必要がある。また、3年生の数学は全ての分野について課題があることが明確となった。今後、習熟度別少人数授業や放課後補充教室を活用し、基礎・基本の徹底を図っていく。

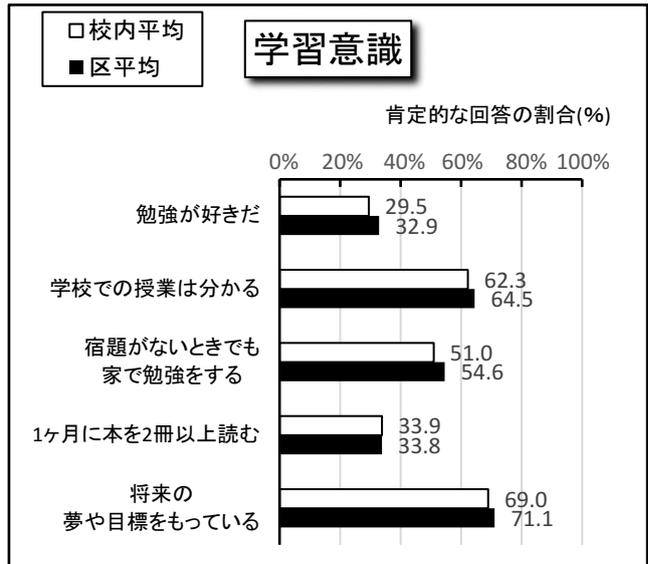
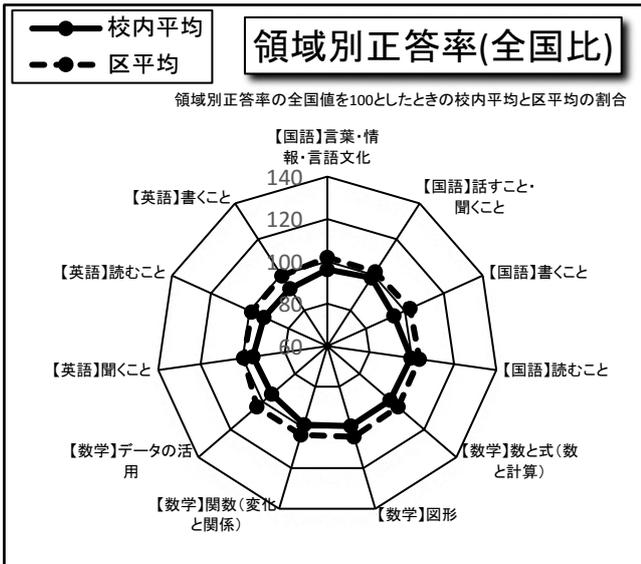
### 【学習意識調査】

○「宿題がないときでも家で勉強する」の項目が区平均よりも7.4ポイント下回っている。家庭学習ノートを活用して、毎日自宅学習を行うことで、家庭学習の習慣化を図る必要がある。

## 学校による学力向上への主な取り組み

- 授業は足立スタンダードを基盤とし「わくわく」「分かる」「笑い」の3項目を共通実践することで、学習者主体で達成感がある授業を展開する。
- 放課後補充教室において、区調査や単元テスト等を活用し、目標に達しない生徒に対して、学年体制で指導を行う。指導に際しては、学習支援ボランティアの協力を得て、A Iドリル等を用いて、学習成果を実感できるような学習を工夫する。
- 毎週金曜日の朝学習は、全校体制でA Iドリルに取り組みせ、基礎学力の向上を図る。
- 区調査の結果におけるS P表を教科指導専門員とともに分析して課題を明確にすることで、その課題を改善する授業を継続実践する。さらに、課題の見られる領域や単元については、配当時数を増やすなど、予防的な指導を行う。
- 国語・数学・英語の学習コンテストを各教科年2回実施する。コンテスト前は朝学習を実施し、学習内容の復習・確認を行う。合格ライン未到達者には、放課後補充を実施する。

# 六月中学校



	学校全体			1年			2年			3年		
	国語	数学	英語									
目標値(R6)				53.1	55.6	80.8	60.2	41.8	51.5	68.2	40.1	52.6
通過率(R6)	62.8	63.2	56.0	68.1	69.0	67.2	69.5	58.5	37.0	53.3	62.4	62.4
目標値(R5)				67.1	56.4	65.5	66.0	41.2	57.1	71.6	40.5	55.6
通過率(R5)	64.3	58.6	52.5	59.8	61.4	64.6	72.7	68.2	46.4	59.0	45.3	48.2
平均正答率(R6)	65.5	51.6	60.4	60.1	64.8	83.3	65.9	43.8	47.2	69.3	46.6	59.6
平均正答率(R5)	72.2	48.1	58.3	68.3	59.5	67.7	74.4	48.1	56.5	73.2	37.0	54.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値)

## 「学習定着度調査」分析結果

- 領域別正答率…前年度から改善しているが、全領域で区平均を下回っている。  
前年度、特に区平均を大きく下回った【数学：関数(変化と関係)】が、本年度は区平均と同程度まで改善した。また、前年度に区平均と比べて平均正答率が低かった複数の領域で改善傾向が見られる。一方で国語や英語の【書くこと】及び数学の【データの活用】については、区平均を大きく下回っているため、知っていることや考えたことを記述して表現できるよう、指導の改善を図る。
- 学習意識…5項目中4項目が区平均を下回っている。  
「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」は前年度よりも肯定的な回答の割合が増加した。一方で「宿題がないときでも家で勉強をする」は前年度よりも4.3ポイント、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は3.2ポイント減少した。このことから、家庭学習の習慣が定着するよう家庭での学習の仕方について継続して指導するとともに、読書を通して知識や語彙が豊かになるよう学校図書館を活用した授業の工夫及び推進を図る。

## 学校による学力向上への主な取り組み

【放課後補充教室の実践】何度も小テストを行い生徒一人一人の苦手分野を明確にした上でA Iドリルに取り組みせ、克服できるようにしている。また、定期考査前は質問教室を行い、意欲的に学習に取り組めるようにしている。

【学習委員会の活動】学習委員会の活動として、学習を促す掲示物の作成や各種検定の受検を推進している。また、定期考査前には生徒に予想問題を作成させ、対策学習を促進している。

【土曜補充教室(ドテラ)】定期考査前の土曜日を中心に、大学生の学習支援ボランティアによる、学習教室を年間で行っている。多数の生徒が参加している。

【家庭学習の充実】放課後補充教室と連動し、家庭学習ノートやA Iドリルを活用した家庭学習を充実させている。

【授業改善プランの作成と活用】学力調査の結果を分析し、授業改善プランを作成・活用している。また、「足立スタンダード」に沿って、生徒が自ら課題を見つけ、解決する目的をもって課題に取り組み、自分の言葉でまとめる授業展開をめざしている。